字解

體力　身体ノ外カニ堪ヘ得ル力

敏捷　スバシコキコト

健康　病ナキコト、無病、達者

習熟　ナレテ上手ニナルコト　ナレテ苦ニ思ハヌコト

強健　身体強全ニシテ強クサカンナル事

耐久　久シキニ堪ヘ得ルコト　永モチ

技藝　ワザ、藝術、技術

錬磨　ネリ磨クコト　研究スルコト

一、艱苦缺乏ニ堪ヘ克ツハ軍人必須ノ性質ナリ宜シク在郷ノ日ニ於テ之ヲ養成シ自信力ヲ強クシ又進取力ヲ増スヲ要ス

一、身体ハ父母ヨリ受ケタルモノニシテ之レヲ損ハサルヲ孝ト云フ父母ニ孝ナルハ即チ忠ナリ

一、花柳病ニ罹ルハ既ニ人間ノ價ノ十分ノ八ヲ落シタルモノナリ

一、花柳病ハ自己ノ意志ヨリ起リ子孫ニ其害ヲ及ホス

一、人間最大ノ幸福ハ身体ノ健全ヨリ生ス

一、身体強健ナレハ従テ心壯快ニシテ何事モ面白ク勞ヲ厭ハス働クコトヲ得ヘシ故ニ健康ハ成功ノ父母ナリト云フ

一、將來ヲ考ヘサル人ハ多ク疾病ニ仆レテ始メテ養生シ快復スレハ亦衞生ヲ忘レ怠ル誠ニ憫ムヘキニアラスヤ

一、運動愈々活潑ナル時ハ神氣益々爽快トナリ不屈ノ元氣ヲ生ス運動遲緩スル時ハ身体ニ惰氣ヲ生シ元氣ヲ失ヒ遂ニ身体倦怠シテ胃、腦等ニ故障ヲ生ス

運動ニハ諸種アリト雖モ手、足、膝、腰、首、呼吸ノ全部ヲ活動スル爲メニハ体操ヲ有利トス毎日朝夕十分ツツ行フ敢テ難キニアラス只規則的ニ良習慣ヲ作ルニアリ勞働者ニ体操ハ不用ナリトハ大ナル過ナリ是レ身体各部平均ノ運動ヲ欠ケハナリ

一、武技ノ演練ハ能ク二個ノ目的ヲ達成ス即チ技術ニ熟達スルノミ

ナラス膽力ヲ壯大ニス蓋シ武技已ニ修得スレハ心ニ恃ム所アリ氣力隨テ興奮ス

一、睡眠ハ運動ト同樣尤モ大切ナリ二十四時間中六乃至八時間ノ睡眠ハ欠カサルヲ要ス

一、家ノ內外ハ常ニ淸潔ニスヘシ汚物塵芥ヲ積ミテ臭氣ノ發スルコトアルヘカラス

一、衣類、食器類等ハ淸潔ニシテ時々日光ニ晒スヘシ

一、飮用水ハ殊ニ水質ノ善良ナルヲ要ス汚物、汚水、泥水、糞尿ノ浸潤スルハ大ニ注意スヘシ

一、便通ハ日々ノ食事ノ如ク大切ナリ若シ一日ニ必ス一回便通ナキ時ハ健康ニ異狀アル徵ナリト云フ故ニ一日二回ノ便通アル如ク習慣ヲ要ス

身体ノ强健ハ以上ノ注意ヨリ來ルモ尙個人衞生ト公衆衞生ニ別テ左ニ之ヲ述ヘン

其一　個人衞生ニ關スル注意

一、起臥動作ニ一定ノ習慣ヲ付スルコトハ極メテ必要ナリ善良ナル習慣ノ力ハ偉大ナル効果ヲ衞生上ニ及ホスコトハ軍隊生活ニ於テ之ヲ知ル所ナルヘシ

一、身體ノ鍛鍊ハ畜生上缺クヘカラサルモノナリ

一、口腔ハ每朝必ス之ヲ淸潔ニシテ夕食後モ亦成ルヘク之ヲ含嗽スルコトヲ努ムヘシ

一、屢々浴ヲ取リ身體ノ諸部ヲ淸潔ナラシムヘシ

一、頭髮ハ之ヲ短ク剪ルヘシ爪モ屢々切ルヘシ

一、一日三度ノ食事ハ其ノ適量ヲ越ヘサルコト、各食事間ニ必要ノ時間(約五時間)ヲ置クヲ要ス

一、食事ニ先チ成ルヘク手ヲ洗フノ習慣ヲ養フヘシ是レ手ハ種々ノ

物ニ接觸スルヲ以テ病毒ノ媒介ヲナスノ虞アレハナリ

一、食器ハ常ニ清潔ニシテ時々日光消毒ヲ爲スヘシ

一、食物ハ其ノ消化ヲ助クル爲能ク咀嚼シ又頓食急食ヲ愼ムヘシ

一、勞働後ハ少時ノ休憩ヲナシテ食後ハ半時間乃至一時間ノ休憩ヲ要ス

一、間食ハ胃ヲ害フコト多キヲ以テ之ヲ爲ササルノ美風ヲ養フコトヲ努ムヘシ

一、間食ハ消化機能ヲ害スルノミナラス濫費ノ惡習ヲ誘致スルヲ以テ大ニ警戒セサルヘカラス

一、間食ノ弊害ナルヲ知リテ之ヲ除去シ得サルハ克己心ノ乏シキコトヲ證スルモノナリ

一、生水ヲ飮用スヘカラス夏季恐ルヘキ傳染病ハ多ク是等ニ原因スルモノ又ハ未熟ノ果物等ヲ食スヘカラス

一、勞働終リ家ニ歸ラハ乾布ヲ以テ汗ヲ拭ヒ汗濕セル襦袢或ハ襯衣ヲ交換スヘシ汗身ノ儘冷氣ニ觸ルヽトキハ感冒ニ罹ルノ憂アリ

一、勞働後ハ顏面、手、足ヲ清洗シ且含嗽シテ口、鼻、咽喉、目瞼等ニ附着セル塵埃ヲ除キ以テ結膜炎、竝咽頭加答兒等ノ發生ヲ豫防スヘシ

一、寒時鼻、耳、手、指等ヲ摩擦シテ凍傷ヲ豫防スヘシ又手、足ヲ濕ホスコトアラハ速カニ乾拭シ被服ハ常ニ乾燥スルヿニ注意スヘシ

一、嚴寒ニ於テ外ヨリ內ニ入ルモノ遽ニ火邊ニ近クハ却テ凍傷ヲ起シ易キヲ以テ注意スヘシ

一、衣服及寢具ハ常ニ清潔ナラシムヘシ

一、睡眠ハ充分ニスヘシ然ル家業ヲ怠ルヘカラス

一、游泳ノ際ハ水溫及其持續ニ注意シ決シテ初メヨリ長キ持續ヲナスヘカラス水溫ハ攝氏二十度以下ニテハ不可ナリ

一、游泳ノ際ハ往々劇波ノ爲皷膜破裂ヲ來スコトアリ宜シク耳ニ綿（脫脂綿ハ不可ナリ）ヲ挿入スルヲ良トス

一、游泳ノ際ハ入水前暫時徒手體操ヲ行ヒ關節ヲ柔ケ特ニ關節部ニ能ク按摩シテ「カラスナエ」ヲ豫防スヘシ

其二　公衆衛生ニ關スル注意

一、人ハ一般ニ個人トシテ能ク衛生ヲ守ルモ衆人相集リタル時ハ其ノ注意ヲ怠リ易キモノナリ是レ公德心ニ乏シキ者多ケレハナリ

一、吾等人間ハ各獨立シテ此ノ世ニ生存シ得ルモノニアラス必ス社會ヲ組織シテ兄弟ノ如ク愛シ朋友ノ如ク相扶ケ以テ世ニ處セサルヘカラス一人ノ不衛生ハ直接又ハ間接ニ衆人ノ害トナルモノニシテ單ニ衆人ニ害ヲ與フルノミナラスヤカラ其ノ害ハ自己ニ反リ來ルモノナリ

一、人若シ公衆ノ衛生ヲ守ルコト個人ノ衞生ヲ重スル如クナラハ國

家皆強健トナリ愉々快々トシテ本分ヲ竭シ國運ノ伸張國利ノ增進自他ノ利福皆望ンテ得ラレサルナキニ至ラン在鄉軍人ハ國民ノ摸範トシテ治ク此ノ良風ヲ養ヒテ眞ニ文明ノ民タルニ耻チサル如クナラサルヘカラス以下衆人ニ對スル衞生ニ關シ注意ヲ掲ケントス

一、毎朝寢具ヲ振ヒ或ハ室內掃除ノ際ハ窓戶ヲ開クヘシ

一、室內ハ常ニ淸潔ニシ居常塵汚セサルニ注意スヘシ

一、雨便ハ必ス便所ニナシ唾ハ必ス痰壺ニ吐クヘシ又痰壺ノ水ハ一日一回必ス更ヘ汚水ハ便所ニ捨ツヘシ

一、炊事場、洗濯場、浴場、洗面所及溝渠等ハ常ニ淸潔ニスヘシ

一　塵芥ハ必ス塵捨場ニ捨ツヘシ又其ノ周圍ヲ不潔ナラシムヘカラス

一、手水桶ニハ常ニ淸水ヲ充實スルコト

一、濕潤セル物ハ必ス室外ニ出シ乾燥スヘシ
一、食卓上ニ食物ヲ配置シアル時寢具ヲ展ヘ塵埃ヲ飛揚シ之ニ附着セシムヘカラス
一、衣服其ノ他ノ諸品ニシテ汚ゴレタルモノヲ室内ニ放置スヘカラス
一、自己ノ傳染病アルヲ知リ之ヲ隱匿スヘカラス
一、下痢患者ハ必ス定メタル厠ヲ使用シ健康者ハ之ヲ使用スヘカラス
一、蚊帳ハ常ニ之ヲ完全ナラシメ蚊ノ侵入ヲ防クヘシ又出入者ハ蚊ノ入ラサル如ク注意スヘシ蚊ハ病ヲ傳播スル力頗ル大ナレハナリ
一、傳染病患者アルトキハ其附近ニ立寄ルヘカラス例ヒ親戚ナリトモ之レカ爲メ義理ヲ欠クモノニアラス

一、傳染病又ハ其疑アル患者若クハ其死者アリタル家ニ於テハ速ニ醫師ノ診斷若ハ檢案ヲ受ケ又ハ直チニ其所在地ノ警察官吏市町村長、區長、戶長、檢案委員、又ハ豫防委員ニ届出ッヘシ
前項ノ届出ヲ爲スヘキ義務者ハ一般民家ニ在リテハ戶主若ハ之ニ代ルヘキ者、社寺、公私立學校、病院、製造所、又ハ船舶、會社、各種事務所、貸席、興行場、其他集會ノ場所ニ在リテハ其ノ首長管理人又ハ代理者トス（傳染病豫防規則）
一、時々寢具及被服類ヲ日光ニ晒スヘシ
一、窓戶ヲ閉チタル室内ニ多人數集合スルトキハ喫烟スヘカラス

露光量違いの為重複撮影

露光量違いの為重複撮影

第六章　自己ノ持權ヲ尊重セヨ

南滿洲鐵道守備志願ニ就テ

賀表

勳章記章及其佩用ニ就テ

年金恩給扶助料ニ就テ

軍服ノ着用ニ就テ

陸軍刑法懲罰令

感狀及適任證書

第六章　自己ノ特權ヲ尊重セヨ

一、勳等功級等ヲ正式ニ書クニハ左ノ如クスルモノナリ

官、位、勳、功、學位、爵　氏　名

一、現役ヲ離レテ二年以内ノモノ再ヒ現役ニ服セントスル者ハ第二章服役之部ヲ見ヨ

一、南滿洲ニ於ケル鐵道守備ニ任スル獨立守備隊補充要員志願者ハ左記各號ニヨリ毎年三月十日ヨリ四月十日迄ニ本籍地市、町、村長ニ願書ヲ差出スヘシ

イ、志願者ハ行狀方正、身元確實、身体强壯ニシテ且ツ在隊中勤務勉勵ナリシ者タルヘシ

ロ、志願者ハ獨立守備隊編入ノ日ヨリ二年ノ服務ヲ誓約スルコトヲ要ス但シ輸送ノ關係上服務期間ヲ延期スルコトアルヘシ

誓約年限中國民兵役ニ轉入スル者ハ之ヲ採用スルコトナシ

ハ、獨立守備隊服務滿期後ト雖モ志願ニ依リ其服務期限ノ延長ヲ許可スルコトアルヘシ但シ一回ニ一年ヲ限リ誓約セシム

ニ、志願ニ依リ獨立守備隊ニ編入セラレタル者ハ自己ノ都合ニ依リ其誓約ヲ取消シ若クハ誓約期間ヲ短縮スルコトヲ得ス

ホ、志願ニ依リ獨立守備隊ニ編入セラレタルモノニシテ屢々軍紀ヲ紊リ又ハ其他ノ事故ニ依リ守備勤務ニ服スルコト能ハスト認メラレタル者ハ其誓約期限ニ拘ハラス歸鄉セシムルコトアルヘシ但公務ニ基因シタル傷痍疾病ニ罹リタル者ハ此ノ限リニアラス

ヘ、獨立守備隊ニ編入ノ下士兵卒ハ其成績ニ依リ進級セシムルコトアルヘシ

ト、獨立守備隊服務中ノ身分取扱ハ召集中ノ者ニ同シ

チ、獨立守備隊服務中被服糧食等ハ總テ官給トス

一、有位、有勳者ニシテ新年ニ拜賀シ又ハ新年、紀元節、天長節ニ宮中ニ參賀シ得ヘキ者ニシテ地方ニ在ルトキハ第一書式（高等官ニ用フ）第二書式（判任官以下ニシテ位勳アルモノ）ニ據リ賀表ヲ式部職（東宮職）ニ差出スヘシ但シ連名ヲ以テスルモ妨ナシ

（用紙ハ大廣奉書但シ美濃漉葉ニテモ可）

第一書式

横ニツ折

謹奉賀新年	紀元節	天長節
年月日		
官位勳爵氏名		
チリメ	チリメ	チリメ

第二書式

横ニツ折

謹奉賀新年		
年月日		
位勳爵氏名		
チリメ	チリメ	チリメ

封書ノ書キ方

宮内省式部職
御中

東宮職
御中

一、勳章記章佩用心得

イ、勳章ハ男子ハ大禮服及ヒ通常禮服(燕尾服)着用ノ時佩フヘシ
　從軍記章及褒章ヲ有スル者亦同シ

ロ、我勳章ヲ有スルモノ我勳章ヲ佩ヒスシテ外國勳章ノミヲ佩フヘカラス

ハ、我國及外國ノ左肩ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ外國ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

ニ、外國左肩ニ佩フル勳章ヲ我從軍記章及褒章ト併佩スル時ハ我從軍記章及褒章ヲ外國ノ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

ホ、外國ノ記章ト我從軍記章ト併佩スル時ハ之ヲ我從軍記章及褒章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

一、勳章略章略綬佩用心得

イ、各種勳章ノ略章ハ通常禮服着用ノ時或ル場合ニ於テ連鎖或ハ綬ヲ以テ左肩ニ佩用スルヲ得外國勳章ノ略章モ又同シ

ロ、略綬ハ通常禮服通常服着用ノ節左襟見返シノ鈕孔ニ掛ケ佩フヘシ

ハ、略綬ハ別種二箇以上ノ勳章ヲ有スル者各其綬ト同色ナル絹ヲ二箇若クハ數箇合併ノモノヲ製シ之ヲ佩用スルヲ得又内外數種ノ勳章ヲ有スル者ハ内外數箇合併ノ略綬ヲ製シ之ヲ佩用スルコトヲ得

一、勳章年金ヲ有スル者ノ注意

支給規則摘要

イ、年金ハ半額ヲ毎年六月十二月ノ兩度ニ郵便局ヲ經テ支給セラル

支給期日ハ當該支給期月ノ十一日ヨリ二十日迄トス但シ東京市内ニ在ル郵便局ニ於テ支給スルモノハ此日限ニアラス故ニ

當該郵便局ニテ指示ヲ受クルヲ要ス

ロ、郵便局所ニ於ケル給與金ノ支給事務取扱時間ハ郵便爲替貯金受拂ノ例ニ依ル

ハ、金鵄勳章年金ニ依リ遺族ニ賜リ年金支給ノ期ハ年金受領者ノ死亡六月三十日以前ニ在ルモノハ七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ヲ以テ終リ其死亡七月一日以後ニ在ルモノハ翌年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル

ニ、年金受領者カ死亡離籍若クハ婚姻シタル爲メ年金受領ノ資格ヲ失ヒタルトキハ遺族、親戚又ハ本人ヨリ最寄郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ届出スヘシ

ホ、金鵄勳章年金ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ遺族アルトキハ其賜期滿期ノ後還納スルモノトス

ヘ、年金ヲ繼受セントスル遺族受領者最終期ノ年金支給濟ノ後署

名捺印シタル願書ヲ市區町村長ニ差出スヘシ

ト、水火盜難等ニ由リ年金証書ヲ亡失シタルトキハ年金ノ種類証書ノ番號年金額及亡失ノ事由ヲ具シ年金支給郵便局ニ届出ヘシ

チ、年金受領者氏名ヲ改メタルトキハ其届書ヲ年金証書及戸籍謄本ヲ添ヘ年金支給郵便局ヲ經テ郵便貯金局ニ差出スヘシ

リ、改印ハ速ニ届出スヘシ

一、滿洲居住者ノ年金、恩給及扶助料請求方

滿洲在住者ノ恩給諸祿ハ關東都督府民政部ニ於テ支給スヘキニ付年金恩給若クハ扶助料ノ受領者ニシテ居住地ニ於テ支給ヲ受ケントスル者ハ洲内ニ在リテハ民政署、民政支署洲外ニ在リテハ警務署、警務支署又ハ領事館領事支館ニ於テ各權利証書ノ檢閲ヲ受ケ支拂請求書ニ檢閲濟ノ証明ヲ受ケ關東都督府民政部ニ提出スヘシ

一、軍服ノ着用

1、在郷陸軍下士兵卒ハ左ノ場合ニ限リ制服（帶劍ヲ除ク）ヲ着用スルコトヲ得

イ、滿期歸郷ノトキ

ロ、召集若クハ簡閱點呼ノトキ

ハ、演習及觀兵式參觀ノトキ

ニ、儀式葬祭ノトキ

ホ、以上掲クルモノ、外在郷軍人ノ資格ヲ表スルトキ

2、陸軍々人ニシテ外國ニ在留又ハ旅行中ノモノハ公務若クハ公式ニ於テ其身分ヲ表彰スルヲ要スル場合ノ外陸軍制服ヲ着用スルコトヲ得ス

3、豫備後備將校タル者ニシテ官公立學校敎員ノ職ニ在リテ其職務ニ從事スル際制服ヲ着用スルハ差支ナシ

4、在郷下士等ニシテ官公立學校敎員ノ職ニ在ル者モ其職務ニ從事スル際ハ前項同樣ナリ

以上ノ特權ハ諸子ノ行爲ノ善良ナルトキニ享ケ得ルモノニシテ若シ軍人ノ本分ニ欠クルトキハ左ニ述フルカ如キ不名譽ヲ負フ

一、陸軍刑法ハ左ノ者ニ適用セラル

イ、召集中ノ在郷軍人

ロ、召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人

ハ、前二號ニ記載シタル者ノ外陸軍ノ制服着用中又ハ現ニ服役上ノ義務履行中ノ在郷軍人

ニ、志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレ服務中ノ者

前各項ニ在郷軍人ト稱スルハ陸軍ノ現役以外ノ役ニ在ル者陸軍ノ現役ニ在リテ未タ入營セサル者陸軍ノ歸休兵及退役將校同相當官准士官ヲ謂フ

一、陸軍懲罰令

I、陸軍懲罰令ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ之ヲ適用ス

イ、召集中ノ在郷軍人

ロ、召集ニ依ラス部隊ニ在リテ陸軍軍人ノ勤務ニ服スル在郷軍人

ハ、志願ニ依リ國民軍ニ編入セラレ服務ノ者

ニ、現ニ服役上ノ義務履行中又ハ陸軍軍人ノ身分ヲ表彰シ得ヘキ服裝ヲ爲ス在郷軍人

2、犯行アル者懲罰處分ヲ經ス其職務ヲ去リ除隊若クハ召集解除ト爲リ又ハ前項末號ニ該當セサルニ至リタルトキト雖モ仍之

ヲ懲罰ス

一、勳章褫奪或ハ佩用ヲ停止セラルヽ、塲合

1、勳章ヲ有スルモノ死刑懲役又ハ無期若ハ三年以上ノ禁錮ニ處セラレタルトキハ其ノ勳等功級又ハ年金ハ之ヲ褫奪セラレタルモノトシ外國勳章ハ其佩用ヲ禁止セラレタルモノトス

前項ノ塲合ニ於テハ勳章勳記年金證書又ハ外國勳章佩用免許證ハ之ヲ沒收ス前級ノ勳記又ハ功記ニ付亦同シ

2、勳章ヲ有スル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ情狀ニ依リ其ノ勳等功級又ハ年金ヲ褫奪シ外國勳章ハ其佩用ヲ停止ス

イ、刑ノ執行ヲ猶豫セラレタルトキ

ロ、三年未滿ノ禁錮ニ處セラレタルトキ

ハ、懲戒ノ裁判又ハ處分ニ依リ免官又ハ免職セラレタルトキ

ニ、素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚シタルトキ

3、勳章ヲ有スル者法令ニ依リ拘禁セラレ又ハ勞役場ニ留置セラレタルトキハ其ノ期間勳章ヲ佩用シ又ハ之ニ屬スル禮遇特權ヲ享クルコトヲ得ス外國勳章ハ其ノ佩用ヲ停止ス

保釋責付、假出獄又ハ刑ノ執行猶豫ノ期間亦同シ

4、記章、褒章ノ褫奪又ハ其ノ佩用停止及外國記章ノ佩用禁止又ハ停止モ右ニ同シ

一、恩給等ノ資格消滅スル場合

1、軍人左ニ揭クル事項ノ一ニ當ルトキハ退職恩給免除恩給、增加恩給賑恤金給助金ヲ受クヘキ資格消滅ス

イ、重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

ロ、日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキ

ハ、將校及相當官准士官ニ於テハ陸海軍刑法剝官ヲ附加スル禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮

刑ニ處セラレ官職ヲ失ヒタルトキ

ニ、陸海軍將校分限令第二條第六項ニ依リ免官トナリタルトキ

ホ、准士官以下願ニ依リ免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

ヘ、陸軍下士上等兵及同等級者ニ於テハ陸軍懲罰令ニ依リ又ハ素行修マラス若クハ其職務ヲ辱シムルニ依リ官職ヲ免セラレタルトキ

ト、陸海軍下士及諸卒ニ於テハ普通刑法其他ノ罰則ニ依リ禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ陸海軍刑法ニ依リ將校ニ對シテ剝官ヲ附加スヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

2、退職恩給、免除恩給、增加恩給ヲ受クルモノ重罪ノ刑ニ處セラレ若クハ日本臣民タルノ分限ヲ失ヒタルトキハ恩給ヲ剝奪ス

左ニ揭クル事項ノ一ニ當ルトキハ其間之ヲ停止ス

イ、再ヒ現役ニ就キ若クハ文官判任以上ニ任シ政府ヨリ俸給ヲ受クルトキ但シ商業ヲ營ムコトヲ得ヘキ官職ニ在ルトキ及准士官以下ニシテ文官判任以上ニ任セラレタルトキハ此限ニアラス

ロ、公權ヲ停止セラレタルトキ

ハ、扶助料ヲ受クル者左ニ掲ル事項ノ一ニ當ルトキハ其權利消滅スルモノトス

イ、重罪ニ處セラレタルトキ

ロ、日本臣民ノ分限ヲ失ヒタルトキ

ハ、扶助料ヲ受クヘキ權利ノ生シタル日ヨリ七個年内ニ請求セサルトキ

ニ、死歿若クハ戸籍ヲ去リ若クハ婚家シタルトキ

一、咸狀ヲ受ケタルモノ軍人ノ体面ヲ汚ス所爲アリタルトキハ其咸狀ヲ褫奪ス

一、士官勤務適任證書ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該ルトキハ其證書ヲ無効トシ之レヲ返還セシム

イ、品位ヲ汚損スル所爲アルトキ

ロ、家資分散又ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキ

ハ、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

ニ、軍紀ヲ紊リ若クハ屢々法則ヲ犯シ又ハ品行不正ニシテ改悛ノ目途ナキ爲メ一等卒若クハ一等看護卒ト爲リタルトキ

一、下士適任證書ヲ有スル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其證書ヲ無効トス

一、在鄉中保險等ヲ約束シタル事ハ尊重セサルヘカラス故ニ之レカ爲メ左ニ必要ナルモノヲ掲ク諸氏ハ之カ記入ヲ怠ラサルヲ要ス

保險契約一覽

保險種類	
會社	
保險人名又保險物	
被保險者	
掛金割合	
保險期間	
拂込額	

諸關係加盟入會振込金一覽

種類	
金額	
摘要	

露光量違いの為重複撮影

一、自己ノ所持品中貴重ナルモノハ茲ニ記載シ置クヲ可トス之レ不時ノ變ニ際シ官ニ手數ヲ掛ケサル爲ナリ

持物番號控	
品目	摘要
預金通帳 第　號	
懐中時計 第　號	

露光量違いの為重複撮影

一、自己ノ所持品中貴重ナルモノハ茲ニ記載シ置クヲ可トス之レ不時ノ變ニ際シ官ニ手數ヲ掛ケサル爲ナリ

持物番號控	
品目	番號
預金通帳	第　號
懷中時計	第　號
摘要	

第七章　戰時ノ心得

其一、戰場ニ於ケル心得

其二、思賞

第七章　戰時ノ心得

一、我祖先並ニ我先輩及諸子ノ一部ハ我國ニ一旦緩急アリシ際義勇公ニ奉シタルコトヲ擧クレハ左ノ如シ

○戰場ニアル者
- 身命ヲ擲テト上官ノ命令ニ服從シ戰鬪ニ從事シタリ
- 君命ヲ奉シテ使節ヲ全フシタリ
- 彈藥糧食ノ供給ニ遺憾ナカラシメタリ
- 傷者ヲ救護シタリ
- 交通運輸ノ便ヲ計レリ
- 遺族ヲ慰問シ又ハ救護シタリ
- 戰鬪員ノ慰安ニ勉メタリ

○內地ニアル者
- 一層勤儉ヲ行ヒ業務ヲ勉勵シ戰時非常納稅ヲ全フシタリ

出征者ノ意氣ヲ鼓舞シタリ

戰場ニアル者ノ家族ヲ救護シ以テ後顧ノ憂ナカラシメタリ

金品ヲ献シ又ハ軍費ヲ調エタリ

一、諸子ハ目下平和ニアルモ決シテ有事ノ日ヲ忘ルヘカラス武士ハ平時帶刀ノ手入ヲ怠ラサルヲ以テ要スルニ此ノ在郷軍人會カ軍事智識ノ增進ヲ要求スルハ此ノ主旨ナリ

一、本章其一ニ掲クル戰場ノ心得ハ業務ノ餘暇常ニ反覆熟讀スヘシ在鄉軍人會會合ノ際互ニ諮問スルモ亦一方法ニシテ在鄉軍人トシテノ嗜ノ上々ナルモノナリ

將來ノ戰鬪ハ交通ノ便利ニヨリ諸子ハ召集セラル、ヤ直ニ戰地ニ至リ對敵行動ニ移ツラサルヘカラス故ニ召集セラレサル前ニ於テ之ヲ記臆シ置カサレハ戰場ニ於テ一人前ノ兵トナルヲ得サレハナリ

一、戰役間國家ヨリ諸子カ受クル手當ハ左ノ如クナルコトヲ知リ平素勤儉產ヲ增サザルヘカラス

下士兵卒平戰両時給料月額

區分		平時	戰時1/4	戰時2/4	區分	平時	戰時1/4	戰時2/4
軍曹並相當	一等	一三、九〇〇	一六、一二〇	一九、三五〇	下士勤務	二、三四〇	二、九二〇	三、五一〇
	二等	一〇、八〇〇	一三、五〇〇	一六、二〇〇	諸兵卒			
	三等	九、〇〇〇	一二、二五〇	一五、五〇〇				
曹長並相當	一等	一九、八〇〇	二四、七五〇	二九、七〇〇	上等兵	一、九五〇	二、四三〇	二、九二〇
	二等	一七、一〇〇	二一、三七〇	二五、六五〇	並ニ同級兵卒			
	三等	一五、〇〇〇	一八、七五〇	二三、五〇〇	一、二等卒並ニ同級兵卒	一、五六〇	一、九五〇	二、三四〇

四等	七、八〇〇	九、七五〇	一二、七〇〇	
伍長並相當 一等	五、七〇〇	七、一二〇	八、五五〇	
伍長並相當 二等	四、六五〇	五、八一〇	六、九七〇	

備考

一、平時營外居住下士兵卒ハ本表以外ナリ
二、戰地ニ出發ノ當日ヨリ皈着ノ前日迄ハ平時給料ノ四分ノ二ヲ增給ス
三、出戰又ハ戰備ノ姿勢ヲ完成シタル內地部隊ニ屬スルモノハ平時給料ノ四分ノ一ヲ增給ス

一、諸子出征ノ後不時ノ事變ニヨリ其家族困窮スルコトアレハ左ノ法律ニヨリ救助ヲ受クルヲ以テ安心シテ戰鬪ニ從事スヘシ然ルモ如斯國家ニ多事ニ際シ救助ヲ受クルハ一面ヨリ云ヘハ平素ニ於ケル不注意ノ結果ナレハ平素產ヲ治メサルヘカラス

下士兵卒家族救助令ノ摘要

第一條　戰役ニ際シ召集セラレタル豫備役、後備役、補充兵役、國民兵役ノ下士兵卒ノ家族ハ其召集中本令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ救助ス

第二條　本令ニ於テ家族ト稱スルハ召集ノ當初ヨリ引續キ應召者ト同一ノ家ニ在ル祖父母、父母、妻子、兄弟、姉妹ヲ謂フ但シ召集中出生シタル嫡出子ハ召集ノ當初ヨリ其家ニ在ルモノト看做ス

第三條　救助ヲ受クヘキ者ハ下士兵卒應召ノ爲メ生活スル能ハサル者ニ限ル

第四條　救助ノ程度及方法ハ內務大臣之ヲ定ム

第五條　下士兵卒逃亡シ又ハ三箇月以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其逃亡又ハ刑期中ノ日數ニ等シキ期間救助ヲ停止ス

前項ノ停止ハ公ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ始ム

第六條　下士兵卒死亡若クハ生死不明トナリタルトキ又ハ傷痍若ク

ハ疾病ニ依リ召集ヲ解除セラレタルトキト雖モ本令ノ救助ハ仍
三箇月之ヲ繼續ス

第七條　本令ノ規定ハ戰役ニ際シ現役ヲ延期セラレ又ハ志願ニ依リ
國民軍ニ編入セラレタル下士兵卒ノ家族ニ之ヲ準用ス

一、戰時家族ノ知リ置クヘキコト
在鄉軍人召集セラレ從軍中戶籍ニ異動ヲ生シタルトキハ市町村
長ヲ經テ聯隊區司令部ヘ屆出可シ
其一　戰場ニ於ケル心得

諸子ハ戰場ニ至ル者ナリ故ニ左ニ戰場ニ於ケル心得ヲ訓ヲ此實行ハ
戰勝ノ秘訣ナリトス

一、凡ソ攻擊ハ勝利ヲ得ヘキ唯一ノ手段ナルコトヲ銘心セヨ
一、斥候或ハ戰鬪任務ヲ受クル毎ニ必ス東天ヲ拜シ　陛下ノ万歲
ヲ唱ヘ一死以テ君國ニ捧クルコトヲ心ニ誓フヘシ

一、命令號令ノ下ル時ハ水火モ避クヘカラス死ハ鴻毛ヨリ輕シト
覺悟スルハ實ニ此ノ時ナルヘシ
一、一兵卒ノ精神、或ハ其ノ行爲ハ全軍ノ勝敗ニ關スルコトヲ忘
ルヘカラズ
一、困苦缺乏ハ戰場ノ常ナリ之ニ堪ヘ勝ツハ只勇氣ト誠忠アルノ
ミ
一、困苦缺乏ニ堪ヘ勝テハ夫レ丈ケヨリ多ク君國ニ對シ忠義ヲ致
シタル者ト覺悟スヘシ
一、軍人最後ノ名譽ハ戰死ナリ蓋シ戰死者ハ護國ノ神ト祭ラレ子
孫千載ノ後ニ至ル迄其ノ家名ヲ輝セハナリ
一、父母妻子ノ情ニ迷ヒ「卑怯」未練ノ行ヲナス者ハ生テ還ルモ家
名ヲ汚シ自己ハ勿論父母妻子ニ至ル迄世ニ立チ人ニ交ル事能
ハサルニ至ルヘシ

（戰場一般ノ心得ニ就テ）

一、戰鬪ハ諸兵種協同一致シテ各々其ノ固有ノ戰鬪能力ヲ發揮スルニ依リテ好果ヲ得ルモノナリ

一、協同一致ハ戰勝ヲ得ル爲最モ重要ナルモノニシテ命令ニ服從スルノ外各人ノ獨斷專行ヲ待ツモノトス蓋シ兵種ヲ論セス指揮官タルト兵卒タルトヲ問ハス各人自己ノ任務ノ遂行ニ努力スルハ即チ協同一致ノ趣旨ニ合スルモノニシテ戰況ノ變化ニ應スル臨機ノ手段ハ一ニ各人ノ獨斷ニ待タサルヘカラス而シテ獨斷專行ハ必ス軍人精神ヲ基礎トスル公義心ニ出テ時トシテハ自ラ任シテ友軍ノ犧牲トナルノ覺悟アルヲ要ス

一、軍紀ハ軍隊ノ命脈ナリ戰線幾十里ニ亘リ到ル處地形ト境遇トヲ異ニシ且ツ諸種ノ任務ヲ有スル幾萬ノ軍隊ヲシテ能ク一定ノ方針ニ從ヒ一致ノ運動ニ就カシメ所謂萬人ノ心ヲ以テ一人ノ心ノ

如クナラシムルモノ即チ軍紀ナリ故ニ軍紀ハ上將帥ヨリ下兵卒ニ至ル迄一貫スル脈絡ニシテ其ノ弛張ハ實ニ戰鬪ノ勝敗ヲ定メ軍ノ運命ニ關スルモノナリ而シテ軍紀ノ緊縮ハ上長ニ服從シ其命令ヲ愼重恪守スルニアリ

一、攻擊精神ハ忠君愛國ノ至誠ト献身殉國ノ大節トヨリ發スル軍人精神ノ精華ナリ武技之レニ依リテ精ヲ致シ教練之レニ依リテ光ヲ放チ戰鬪之ニ依テ捷ヲ奏ス

一、勝敗ノ數ハ必スシモ兵力ノ多寡ニ依ラス精練ニシテ且攻擊精神ニ富メル軍隊ハ每ニ寡ヲ以テ衆ヲ破ルコトヲ得ルモノナリ

一、軍人ハ名譽ヲ重ンセサルヘカラス名譽心ハ軍人精神ヲ維持スルモノナリ能ク膽力ヲ助ケ怯懦ヲ掃蕩シ死生ノ地ニ從容タラシム故ニ常ニ此心ヲ保有シ部下ハ上官ノ爲メ上官ハ部下ノ爲ニ互ニ相濟シテ以テ全軍ノ名譽ヲ發揚スヘシ

一、戰鬪ハ行軍及劇働ヲ爲シ且缺乏ニ堪ヘタル後始マルヲ常トス而シテ數晝夜ニ亘ルコト多シ故ニ兵卒ハ勇猛沈着ニシテ自信ト耐忍トニ富ミ戰鬪ノ慘烈ナル感情ニ克チ以テ戰勝ヲ得サルヘカラス

一、勝敗將ニ岐レントシ戰鬪慘酷ヲ極ムルヤハ敵モ亦既ニ我ト同一若クハ以上ノ苦境ニ在ルヘキヲ以テ能ク毅然トシテ之ニ堪ヘ奮然トシテ遏カハ遂ニ敵ヲシテ抵抗ヲ斷念セシムルニ至ルモノトス

勝敗ハ最後ノ五分間忍耐シタルモノニ歸ストハ此謂ナリ

一、軍隊ノ志氣ハ旺盛ナラサルヘカラス自己ノ士氣衰ヘタルトキハ幹部特ニ將校ヲ見ヨ

一、戰鬪激烈トナルヤ戰友死傷スル者多ク又指揮官モ死傷シテ指揮ヲ爲ス者無キニ至ルハ戰場ニ於テ屢々生スル處ナリ此ノ如キ場

合ニ際シテハ敵モ亦我ト同等若ハ其レ以上ノ苦境ニ在ルモノナルコトヲ想起シ率先奮鬪シテ範ヲ垂レ戰友ヲ激勵シ必ス敵ヲ擊攘スルコトヲ努ムヘシ此ノ精神ノ弱キモノハ負ケ強キモノハ勝ツナリ

一、兵卒ハ敵ノ火力熾ニシテ死傷極メテ多キトキト雖モ從容自若トシテ事ニ當リ決シテ逡巡スヘカラス凡テ疑惧退走ハ敗滅ニ陷リ猛烈果敢ナル前進ハ常ニ勝利ヲ得ヘキモノナルコトヲ銘肝スヘシ

一、戰況ヲ悲觀シ敵情ヲ過大視スルノ報告ヲ爲スヘカラス己レ危急ニ瀕スルノ時ハ他部隊モ亦同一景況ニアル時ナルコトヲ想ヒ妄ニ增援隊ヲ請求スルコトアルヘカラス

一、戰場ノ勤務、行動多忙ニ際シ自己ノ部隊ノミ多忙ニ感スルハ人情ナリ斯ノ如キ場合ニアリテハ他隊モ同一ナルモ只指揮官ノ外

知ルヲ得ス故ニ一層勇氣ヲ鼓舞シテ命ヲ奉スルハ戰勝ノ基ナリ

一、射撃ト銃劍ノ効力ハ敵ニ近ツクニ從ヒ益々大ナルコトヲ銘心スヘシ

一、負傷者ニシテ尚戰闘ニ堪ヘ得ヘキトキハ自ラ進ンテ戰闘ニ從事セサルヘカラス

一、攻撃及防禦奏功ノ愉快ハ筆紙ニ盡シ得ス而シテ其度ハ己ノ辛苦ニ比例ス

一、負傷ノ爲戰闘ニ堪ヘサルトキハ自己ノ職務ヲ處置シ其ノ戰闘用具ヲ戰友ニ渡シ上官ノ命ヲ待チテ徐ロニ戰線ヲ退クヘキモノトス此際沈着勇敢ナル動作ハ曾ニ個人ノ武德ヲ表現スルノミナラス良好ナル感情ヲ中隊全般ニ與フルモノナリ

之レニ反シ哀痛ノ聲ヲ揚ケテ救ヲ求ムルハ卑怯ニシテ如何ニ哀痛ノ聲ヲ擧クルモ哀痛ヲ免ルヽヲ得ス却ツテ他ノ戰友ノ士氣ヲ

沮喪スルモノナリ故ニ斯如キ狀ヲナサス又見セサル覺悟ヲ必要トス

一、戰線ニ於テ軍友負傷スル時殊ニ衞生人員其ノ地ニ在ラサル時趨テ之ヲ救助セントスルハ人情ナリ然レトモ此ノ如キハ戰闘線ヲ薄弱ナラシメ以テ危殆ヲ招クコトアリ故ニ列中ニ在ル下士卒ハ將校ノ命令アルニアラサレハ傷者ヲ送致スルコトニ關スヘカラス而シテ之ヲ送致セシ時ハ躊躇セス戰線ニ復歸シ其ノ送致ノ命ヲ受ケタル上官ニ届告スヘシ

一、傷者及死者ノ彈藥ヲ收拾スルコト緊要ナリ

一、電信電話ハ電線ノ完全ニ依リ始メテ其ノ利益ヲ收ムルモノトス故ニ電線ノ保護ニ關シテハ兵卒ト雖深ク之ニ留意シ電線ノ故障ヲ目撃セシ者ハ其ノ地點ト損害ノ程度トヲ附近ノ通信所ニ告知シ止ムヲ得サレハ上官ニ報告スヘキモノトス

一、報告ヲ記スルニハ報告者自ラ目撃セシコトト他人ノ實見セシコトト又唯推測ニ係ルコトト判然區別セサルヘカラス而シテ推測ニ出スルモノハ其ノ理由ヲ記載スルヲ可トス

一、報告ニハ員數、時刻及位置ヲ記スルコト緊要ナリ例ヘハ單ニ敵ノ大縦隊ト記スルノミニシテハ其ノ多寡ヲ知ルニ由ナシ故ニ大約歩兵幾人砲幾門ト記載スヘク又何時何地ヲ何方向ニ行進スル敵ノ縦隊ヲ見シト云フコト殊ニ何時何地ニ其ノ隊ノ先頭若ハ後尾ヲ見タリト云フカ如キモ記スルコト最モ緊要ナリ

一、口上ヲ以テ命令及報告ヲ傳フル時ハ傳令使ハ出發前之ヲ復唱スルヲ要ス

一、傳令使ハ途中上官ニ遇フトモ雖敬禮ヲ行ハス又依然其歩度ヲ變スルコトナシ而シテ内容ヲ知レル報告ヲ携フルトキハ他ノ上官ニ

高聲ニ之レヲ告知スヘシ又要スレハ命令及報告受領者ノ名ヲ呼ヒテ其ノ所在ヲ問フコトヲ得

一、命令或ハ報告ヲ傳達スルニハ下馬ヲ要セス

一、命令報告ヲ送致スル傳令使ノ速度ハ乘馬傳令使ニ在リテハ並(十)ハ速歩ト常歩トヲ混用シ(平均七分間ニ一吉米)急(十十)ハ主トシテ速歩ヲ用ヒ(平均五分間ニ一吉米)至急(十十十)ハ馬力ノ耐フルニ應シ成ルヘク迅速ナルヲ要ス

徒歩傳令使ニ在リテハ並(十)ハ速歩(平均十二分時ニ一吉米)急(十十)ハ駈歩ト速歩トヲ混用シ(平均九分時ニ一吉米)至急(十十十)ハ脚力ノ耐フルニ應シ駈歩ス

一、斥候ハ剛膽ヲ要スト雖亦不意ノ危害ヲ豫防スルコトヲ忘ルヘカラス故ニ敵意ヲ有スル地方ニ於テハ大ナル住民地ヲ再ヒ通過セス又村落及圍墻内ニハ長ク躊躇スヘカラス

一、斥候勤務ニ要スル所ノ性質四アリ曰ク慧敏曰ク熱心曰ク沈著曰ク剛膽ナリ

一、慧敏ナル者ハ未タ知ラサルノ地ニ於テ能ク其ノ地形、方位及道路ヲ知ルヲ得

一、熱心従事スル者ハ久シキニ耐ヘ勞ヲ覺ヘス

一、沈著剛膽ナル者ハ不意ノ事ニ驚カス如何ナル危險ニ際スルモ猶ホ能ク脫逸ノ方法ヲ求メ得ルモノナリ

一、斥候ハ其ノ進退動作ニ深ク注意シ靜肅ニシテ喧噪ナルヘカラス又屢々駐止シテ響音ヲ聽取シ能ク地形ヲ諳識スヘシ要スレハ往路ト異ナル道路ヲ擇ヒ敵ニ中斷セラル、危害ヲ避クヘシ

一、斥候ハ歩哨線ヲ通過スルトキ其ノ近隣ノ歩哨ニ其ノ往ク處ノ方面ヲ告ケ其ノ歩哨ノ見聞セシ新狀況ヲ聞キ皈路ニハ歩哨ノ監視區内ニ於テ敵ニ關シテ見聞セシ事件ヲ簡單ニ告知スヘシ

一、行軍中軍紀ヲ嚴格ニシ被服、裝具、蹄鐵ニ注意シ衛生ニ注意スルハ即チ行軍力ヲ保持シ且之ヲ增加スルニ最有効ノ方法ナリ將來ノ戰爭ハ强行軍ヲ豫期セサルヘカラサルカ故ニ特ニ注意ヲ要ス

一、行軍ニ於テ徒歩兵ノ靴傷、馬匹ノ鞍傷及四肢ノ疾病ハ列兵ヲ減少ス此減員ノ多少ヲ以テ行軍ニ用ヒタル注意ノ深淺ヲ知リ且ツ其軍隊ノ價値ヲトスニ足ルモノトス

一、徒歩兵、乘馬兵及馬匹ニ就キ行軍中絕ヘス監察シ休憩中及宿營ニ於テ自ラ適當ノ保護ヲ爲ス事ヲ忽ニスヘカラス

一、炎熱ニ際シ特ニ恐ルヘキハ日射病、熱中病ナリ

一、日射病ニ最モ効驗アルモノハ飲水ヲ節用スルニアリ

一、亙寒ニ際シ最モ恐ルヘキハ凍死、凍傷ナリ而シテ其ノ豫防法ハ野外ニ於ケル休憩中ト雖手、足、耳、鼻ヲ摩擦シ勉メテ行動ヲ爲シ且常ニ空腹ナラサルニ在リ爲シ得レハ休止ノ際湯茶ヲ飲ミ又

被服濕潤スルトキハ成ルヘク速ニ之ヲ交換スヘシ但身体濕潤ノトキ若ハ大ニ凍痛ヲ感スル時直接ニ火熱ニ觸ル可ラス又屋外ノ睡眠ト火酒ヲ飲用スルトヲ嚴禁シ且常ニ手足耳鼻就中足尖ヲ凍傷ニ罹ラシメサルニ注意スルヲ緊要トス

一、各自携帶スル糧秣(携帶口糧携帶馬糧)ハ軍隊屯營ヲ出發スル時ヨリ各自携帶スル時ノ豫備糧秣ニシテ終始必ス携帶スヘキモノトス而シテ此糧秣ハ非常ノ場合ト雖モ他ニ給養ノ方法ナク己ムヲ得サル時ト雖非サレハ之ヲ用フヘカラス

一、携帶口糧ハ精米及副食物若干(甲)若ハ乾麵麭及副食物若干(乙)ニシテ各自二日分(甲一日分乙一日分)ヲ携帶シ徒歩者ニ在リテハ之ヲ背嚢(背負袋)ニ乘馬者ニ在リテハ之ヲ鞍嚢ニ收容ス携帶馬糧ハ米若干ニシテ各馬一日分ヲ携帶シ乘馬ニ在リテハ之ヲ鞍(旅)嚢ニ收容シ駄馬ニ在リテハ適宜ニ積載スルモノトス

一、宿營中警報アルトキ下士卒武裝ヲ整備シ先ツ小隊(分隊)砲車毎ニ集合シ然ル後歩兵ハ速カニ其ノ中隊ノ集合場ニ集合シ騎兵ハ厩ニ砲兵ハ其勤務ノ區分ニ從ヒ先ツ速カニ砲廠若ハ厩ニ集リテ武裝ヲ整備シ後更ニ砲廠ニ集合シ靜肅ヲ保チ命令ヲ俟ツヘシ

一、敵兵急ニ舍營內ニ侵襲シ之カ爲其ノ屬スル部隊ニ集合スル能ハサル者ハ各々其處ニ於テ現在ノ人員相協力シテ防禦スヘシ

一、歩哨一般ノ守則左ノ如シ

イ、歩哨ハ絕ヘス敵軍ノ方向ヲ監察シ凡テ疑ハシキ徵候ニ深ク注意ス

ロ、敵ニ關シ發見セシ事アレハ速ニ其ノ一人ハ小哨(時機ニ依リ中隊)ニ報告スヘシ

ハ、猶豫セハ危殆ニ陷ルト認メシトキ或ハ敵襲ト知リタルトキハ急劇ノ射撃ヲ爲シテ警報スヘシ

ニ、晝間ハ我軍ノ將校、密集部隊、斤候及傳令使、歩哨線ノ出入ヲ許ス自餘ノ者ノ通過ニ關シテハ凡テ小哨長ノ指示ヲ受クヘシ

ホ、歩哨ノ命スル所ニ從ハサルモノアレハ之ヲ射撃スヘシ

ヘ、夜間歩哨ニ近クモノアレハ銃ヲ構ヘ「誰カ」ト問フ若シ呼フコト三次ニ至ルモ尚答ヘサルトキハ射撃スヘシ凡テ其ノ他ノ處置ハ晝間ノ者ニ異ナルコトナシ

ト、白旗ヲ飜シ遠方ヨリ軍使タルコトヲ標シ來ルモノアルトキハ之ヲ待遇スルニ敵ヲ以テセス之ヲ歩哨線外ニ止メ小哨長ニ報告スヘシ

チ、敵ノ單獨兵銃ヲ投棄シ或ハ遠方ヨリ降參人タルコトヲ標シ來ルトキニモ前ニ同シ然レトモ武器ヲ携帶シアル者ハ先ツ之ヲ放棄セシムヘシ

リ、歩哨ハ命令アルニ非サレハ座臥シ或ハ銃ヲ手ヨリ放スヲ許サス

ヌ、晝間立銃ヲ爲スカ或ハ提銃ヲ爲スカ若ハ銃ヲ腕ニ（銃口ヲ前ニシ稍々水平ニ腕ニ托ス）スヘキカハ其隨意トス

ル、夜間ハ擔銃提銃又ハ腕ニ銃ヲ爲スモノトス

ヲ、上官ノ來ルアルモ之ニ敬禮スルヲ要セス

ワ、上官ヨリ質問アレハ監視ヲ中止スルコトナク唯姿勢ヲ正シテ答フヘシ

一、歩哨特別ノ守則トシテ授ケラルヽコトハ概子左ノ如シ

其ノ歩哨ノ番號、隣歩哨ノ位置及番號小哨及中隊ノ位置、此各位置ニ通スル捷徑、前方ニ進メタル部隊ノ位置、敵情特ニ監視スヘキ地方及顧慮スヘキ村落等ノ名稱隣歩哨ト連絡法、監視スル人員ノ配當

（歩兵ニ就テ）

一、戰鬪ニ最終ノ決ヲ與フルモノハ歩兵ナリ

一、歩兵ノ本領ハ地形及時期ノ如何ヲ問ハス戰鬪ヲ實行シ得ルニ在リ故ニ歩兵ハ縱ヒ他兵種ノ協同ヲ缺クコトアルモ自ラ能ク戰鬪ヲ準備シ且之ヲ遂行セサルヘカラス

一、歩兵戰鬪ノ主眼ハ射撃ヲ以テ敵ヲ制壓シ突撃ヲ以テ之ヲ破摧スルニ在リ射撃ハ戰鬪經過ノ大部分ヲ占ムルモノニシテ歩兵ノ爲緊要ナル戰鬪ノ手段ナリ而シテ戰鬪ニ最終ノ決ヲ與フルモノハ銃劍突撃トス

一、攻撃精神ノ鞏固、体力、強健及武技ノ熟練ハ歩兵必須ノ要件ナリ

一、歩兵戰鬪ハ頗ル靱強ノ性質ヲ有スルモノナルカ故ニ歩兵ハ剛膽ニシテ耐忍ニ富ミ沈着ニシテ勇敢ナラサルヘカラス

一、兵卒ハ防禦ニ在リテハ專心其ノ位置ヲ固守シ決シテ動搖スヘカ

ラス敵兵愈々接近スルニ從ヒ我カ火器ノ殺傷力益々多キコトヲ確信シ泰然逆襲ニ轉スル機ヲ俟ツヘシ

一、彈藥ヲ射盡シ又ハ敵ノ重圍ニ陷リタルトキハ自己ノ銃劍ニ信賴シ最後ノ勝利ヲ求ムルコトヲ勉ムヘシ

一、凡テ射撃軍紀正シケレハ兵卒ハ敵火ノ下ニ在リテ其ノ長ノ命令ヲ嚴守シ確實ニ射撃ノ諸法則ヲ實行シ地物ノ利用及發射ノ時機ニ注意シ常ニ其ノ指揮官及敵兵ニ留意シ目標消滅スルカ或ハ射撃中止ノ號令アルトキハ直ニ之ヲ中止シ又總テノ幹部ヲ失ヒ射撃指揮行ハレサル場合ニ於テモ各自ノ思慮ト判斷トニ基キ依然射撃ノ効力ヲ維持シ得ルモノナリ

一、一回ノ突撃ニシテ若シ成功セサルトキ縱ヒ他隊ノ援助ヲ缺クモ志氣旺盛ニシテ精練ナル中隊ハ再三再四突撃ヲ反覆シ得ルモノナリ苟モ死力ヲ盡シテ奮進セハ如何ニ頑強ナル敵ト雖之ヲ敗滅

ニ陷ラシムルコトヲ得ヘシ

一、突撃ニ際シテハ友軍砲火ノ爲メ損害ヲ受クルコトナキニシモアラス之レ突撃奏功ノ端緒ナレハ一層勇進セサルヘカラス

一、散兵ハ示サレタル目標ノ幅員中己ニ對向セル部ニ於テ比較的明瞭ナルモノヲ射撃スヘシ

一、一旦占有セル地區ハ尺土ト雖再ヒ之ヲ敵ニ委スヘカラス攻者ハ之カ爲要スレハ器具ヲ使用スルコトアリト雖築設セシ掩護物ニ固着シテ攻撃ノ進捗ヲ遲滯スルコトヲ許サス

一、剛健ニシテ思慮ニ富ム所ノ歩兵ハ敵火ノ爲前進極メテ困難ナル場合ニ在リテモ亦器具ヲ使用シツツ前進ヲ續行スルモノトス

一、敵ハ單ニ射撃ノ効果ニ依リ之ヲ驅逐シ得ルモノニアラス故ニ攻者ハ常ニ突撃ヲ實施シ以テ最後ノ勝利ヲ期セサルヘカラス

一、突撃スル部隊手榴彈ヲ使用スル片ハ敵ノ不意ニ出テ之ヲ投ケタル瞬時ヲ利用シテ突入スヘシ蓋シ敵ト手榴彈ノ戰鬪ヲ交ヘタル後ニ於テ突入セントスルカ如キハ却テ進襲ノ氣勢ヲ挫折スルモノトス

一、突撃ヲ行ヒタル軍隊ハ其ノ陣地ヲ奪取シタルヲ以テ足レリトセス敵ヲ殲滅センカ爲追撃射撃ヲ爲シ得ル地點マテ攻撃ヲ續行シ決シテ一陣地ノ占領ヲ以テ滿足スヘカラス

一、突撃ヲ擊退セラレタル場合ニ於テモ尙幹部ト兵卒トノ勇氣ニ依リ至近ノ所ニ蹈止マリ猛烈ナル射撃ヲ爲シ氣勢ヲ恢復シ屢々突撃ヲ繰返シテ終ニ其ノ目的ヲ達スルニ至リテ止ムヘシ

一、敵兵我カ陣地ニ突入セハ其ノ守兵ハ最後マテ奮鬪スヘシ

一、夜襲奏功ノ要訣ハ不意ニ敵ニ肉薄シ銃劍ヲ揮ヒ一擧ニ決戰ヲ求ムルニ在リ

一、戰鬪中彈藥ヲ射盡シ又ハ敵ノ重圍ニ陷リタル時ハ自己ノ銃劍ニ

信頼シ斃ルヽモ尚己マサルヲ眞ノ軍人トス

一、沈着ニシテ射撃ヲ行フ所ノ歩兵ハ何等ノ隊形ヲ以テスルモ優勢ナル敵ノ騎兵ノ襲撃ヲ無効ナラシムルコトヲ得ルモノナリ

（騎兵ニ就テ）

一、捜索勤務ニ於ケル騎兵ノ任務ハ最モ貴重ニシテ其範圍頗ル大ナルヲ以テ一騎卒ト雖モ亦各級ノ指揮官ト均シク拔群ノ功ヲ奏スル機會アリトス故ニ騎兵ハ進退適捷ニシテ詭計ニ富ミ戰術ノ理解力ヲ有シ機ヲ察スル鋭敏ニシテ果敢斷行ナルヲ貴ヒ且奮勵シテ非常ノ困危ニ耐フルヲ要ス

一、捜索勤務ニ於ケル騎兵斥候ノ報告ハ最モ確實ナルヲ要ス蓋シ一兵卒ノ報告ハ作戰ノ基礎ナレハナリ

一、襲撃ノ令一度下ルヤ敵ノ多寡ヲ顧ミス敵火ヲ冒シ地形ノ難易ヲ

問ハス障害ヲ避ケス勇躍奮進シテ敵ヲ壓倒スルノ覺悟ヲ要ス

一、騎兵戰鬪ノ要訣ハ機先ヲ制スルニアリ機先ヲ制スルニハ常ニ敵ヲ攻撃シ決シテ敵ニ攻撃セラレサルニアリ

一、傳騎敵ニ遭遇シタル時ハ詭計ヲ繞ラシテ脫逸ヲ力ムヘシ若シ筆記ノ命令又ハ報告等ヲ敵ニ奪取セラルヽ等ノ恐レアル時ハ速ニ之ヲ破棄スヘシ

一、傳騎ノ責任ハ極メテ重大ニシテ所定ノ時間内ニ之レヲ傳達セサレハ良好ナル報告モ何等價値ナキモノトス故ニ出發ノ時ニハ必ス誰ニ何時迄ニ（歩度）何處ニテ（何道ヲ經テ）呈出スルヲ要スルヤヲ呈出後ノ處置如何ニスルヤヲ問ヒ又要スレハ其距離ヲ聞キ以テ適當ナル歩度ノ配合ヲ爲スコト肝要ナリ

一、馬匹ハ騎兵唯一ノ武器ニシテ騎兵ノ任務達成ハ馬匹ノ如何ニアリ故ニ常ニ愛護シ死生榮辱ヲ俱ニスルヿヲ期セサル可ラス

（砲兵ニ就テ）

一、砲兵ハ他兵種殊ニ歩兵ト協同シテ戰鬪ノ目的ヲ達成スヘキモノトス

一、砲兵ノ本領ハ輕捷ナル運動ト威力強大ナル射撃トヲ以テ戰鬪ヲ實行スルニ在リ而シテ射撃精巧ナルトキハ敵ヲ壓倒震駭シ友軍ノ志氣ヲ皷舞作興シテ遂ニ全軍戰勝ノ途ヲ開クニ至ルモノトス

一、火砲ハ砲兵唯一ノ武器ニシテ戰場ニ於ケル砲兵ノ重大ナル任務ハ皆之ニ依リテ遂行セラルルモノトス故ニ之ヲ尊重擁護シ死生榮辱必ス之ト倶ニスルヲ期セサルヘカラス

一、彈藥ト馬トハ砲兵ノ本領ヲ發揮スル要素ナリ故ニ之カ節用愛護ニ勉メサル可ラズ

一、射撃及馭法ノ精熟ハ戰鬪ノ遂行ニ缺クヘカラサル要件ナリ

一、上下一致堅忍不抜能ク砲兵戰鬪ノ靭強ナル特性ニ堪ヘ危險慘烈

ノ極所ニ立チ一門ノ火砲一名ノ砲手毅然トシテ戰鬪ヲ繼續シ以テ其精華ヲ發揚セサルヘカラス

一、砲兵ハ縱ヒ多大ノ損傷ヲ生シ又全ク彈藥ヲ射耗スルモ之カ爲陣地ヲ撤スルコトナク依然陣地ニ止リ之カ補充ヲ待ツヘシ

一、砲兵ハ敵ト愈々近接スルニ從ヒ我カ火砲ノ効力益々多キコトヲ確信シ泰然トシテ射撃ニ從事スヘシ而シテ敵ノ突撃ハ襲又撃ヲ受ケ全ク射撃スル能ハサルニ至レハ各自敵ト格鬪シ之ヲ擊攘スルコトヲ勉ムヘシ縱ヒ狀況非ナルトキト雖モ陣地ニ在リテ火砲ト其運命ヲ倶ニスヘキモノトス

一、敵火ニ對シ掩護スヘキ工事ハ時機ノ許ス限リ之ヲ設クルヲ要ス然レモ之カ爲決シテ射撃開始ヲ遲緩シ又ハ射撃ヲ忽ニスヘカラス又狀況ノ變化ニ際シテハ斷然之ヲ放棄スルニ躊躇スヘカラス

一、戰鬪進捗シ歩兵將ニ突撃ニ移ラントスル時機ニアリテハ砲兵ハ

至大ノ損害ヲ受クルモ敵ニ近接シテ砲火ヲ以テ歩兵ヲ援助スルニアラサレハ奏功期スルヲ得ス

（工兵ニ就テ）

一、敵前ニ於テ技術的作業ヲ行ヒ交通ヲ容易ナラシメテ戰勝ノ基ヲ得セシムルハ工兵ノ重大ナル任務ナリ

一、爆藥ノ裝置ハ完全ニシテ點火ハ確實ナラサルヘカラス之レヲ爲サントスルニハ身命ヲ賭セサルヘカラス

一、敵前近距離ニ於テ副防禦ヲ破壞シ歩兵ニ進路ヲ與フ爲ニハ斃ルヽモ尚止マサル決心ヲ要ス

一、工兵ノ作業シタル術工物、保壘ハ頑強ナル攻撃ニ遭フモ決シテ攻陷セラル、コトナシトノ感念ヲ以テ緻密ニ且ツ強固ニ作業セサルヘカラス

（輜重兵及輸卒ニ就テ）

一、行李縱列勤務ノ完否ハ行軍力ノ持續如何ニアリ而シテ行軍ハ嚴寒暑ヲ冒シ數晝夜續行セサルヘカラス

一、行軍間敵襲ヲ受クルモ決シテ敵手ニ委スヘカラス之レカ爲ニハ各自ノ沈着ト勇敢トヲ要求ス

一、行進間一馬一輛ノ故障ト雖モ直ニ全隊ニ波及ス故ニ積載物ニ注意シ休止ノ際ハ直ニ修正スヘシ

一、戰鬪間彈藥ノ缺乏ハ自ラ死地ニ陷ルニ等シ戰鬪員ニ是等ヲ供給補充シテ戰鬪力ヲ回復シテ戰勝ヲ得セシムルハ輸卒ノ力ナリ故ニ輸卒ハ赤手敵火ヲ冒シテ邁進スルノ勇氣ナカルヘカラス之レ輸卒ノ殊勳ヲ建ツルノ時機ナリ

一、馬ハ輜重兵及輸卒ノ第一ノ武器ナリ故ニ休止間馬ノ狀態特ニ蹄鐵ヲ檢査シ負傷若クハ疾病ノ徵候アルカ釘節ノ異狀又ハ落鐵アルトキハ速ニ隊長ニ報告シ馬裝及積載ヲ檢査シ適當ナラサルモ

ノハ直チニ之ヲ修正シ以テ馬ノ疲勞負傷等ヲ豫防スヘシ

（各　部）

一、看護卒ハ患者ニ看護スルニハ常ニ親切ト同情心ヲ以テ從事シ決シテ他人ノ事ト思フヘカラス

一、記簿計算ハ直ニ記帳シ又戰時費ノ減少ヲ量ル爲ニハ勞ヲ惜ムヘカラス

其二　恩　賞

以上ヲ恪守シテ戰傷ニ斃レ或ハ忠勤ヲ擢スレハ左ノ恩典ヲ享ク

一、陸海軍感狀

1、軍人戰地ニ於テ左ノ各號ニ該當スル所爲アルトキハ之ニ感狀ヲ授與シ其ノ功績ヲ表彰セラル

イ、敵前ニ於テ拔群ノ勳功ヲ顯シ其所爲軍人ノ模範トスヘキト

ロ、特別ノ任務ヲ負ヒ危險ヲ冒シ敵前ニ行動シ依テ以テ我軍ニ勝利ヲ得セシメタルトキ

ハ、戰鬪中長官ノ危急ヲ救ヒ敵ノ將官ヲ生擒シ又ハ軍旗ヲ奪取シタルトキ

ニ、前各號ニ準スヘキ拔群ナル武功アリタルトキ

2、軍隊艦艇トシテ行動シ前條各號ニ相當スル功績アリタルトキハ感狀ハ之ヲ其軍隊艦艇ニ授與スルコトヲ得

一、進級規則

1、戰時又ハ事變ニ際シ召集ニ應シタル豫備役、後備役、二等卒ニシテ召集後約六ケ月ヲ過キ優秀ナル者ハ一等卒ニ同一等卒ニシテ召集後約十ケ月ヲ過キ優秀ナル者ハ所要ニ應シ上等兵ニ進級セシムルコトヲ得但シ進級セシメントスル同等階級ノ現役兵ニ比シ優秀ナル者アルトキハ本文ノ期限ニ拘ラス進級セ

シムルコトヲ得

2、補充兵ハ初メテ召集ニ應シタルトキ二等卒トス爲シ其召集日數（前後ノ召集日數ヲ之ヲ通算ス）約十ケ月ヲ過キ優秀ナル者ハ一等卒ニ一等卒ト爲リタル・モノニシテ召集後約十ケ月ヲ過キ優秀ナル者ハ所要ニ應シ上等兵ニ進級セシムルコトヲ得

3、國民兵役ニ在ル者又ハ國民軍編入志願者ハ部隊編入ノ際其兵科部等級ヲ有セシ者ニ在リテハ前兵科部等級相當ノ兵卒ト爲シ其他ノ者ニ在リテハ編入部隊所要ノ兵科部二等卒ト爲ス

前項兵卒ノ進級ハ豫備役又ハ後備役ニ在リタル者ニ付テハ第一項ヲ其他ノ者ニ付テハ前諸項ヲ準用ス

4、左ニ揭クル場合ニ於テハ前諸條ノ期間ニ拘ラス進級セシムルコトヲ得

イ、敵前ニ在リテ其ノ功績顯著ナル者

ロ、前諸條ニ依リ上等兵ノ補充ヲ爲シ難キトキ

5、動員ヲ行ヒタル部隊ニ屬スル雜卒中優秀ニシテ同兵科兵卒ト同等ノ技能ヲ有シ其勤務ニ適スル者ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ同兵科ノ兵卒トナスコトヲ得但シ之カ爲メ其ノ在營及服役期限ヲ變スルコトナシ

一、戰時勇敢ナル諸氏ニシテ不具廢疾トナリ或ハ服役年ヲ增セハ國家ハ左ノ恩給ヲ與フ

1、免除恩給ハ下士以下左ニ揭クル事項ノ一ニ當ルトキ之ヲ給ス

イ、現役ハ十一年以上ニシテ定限年齡ニ達シ又ハ定限年齡ニ達セサルモ服役滿期トナリ或ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘス免官若クハ現役ヲ免除シタルトキ

ロ、戰鬪又ハ戰時平時ニ拘ラス公務ノ爲傷痍ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職シタルトキ

ハ、戰地ニ於テ流行病ニ罹リ又ハ戰時平時ニ拘ラス公務ノ爲メ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ勤務ニ從事シ爲ニ一肢以上ノ用ヲ失ヒ若クハ之ニ準スヘキモノニシテ退職シタルトキ

2、軍人現役十一年以上ニシテ文官ニ任セラレタル者又ハ文官ヲ兼任スル者十五年未滿ニシテ退官退職シタルトキハ軍人服役年數ニ對スル恩給ヲ給ス其十五年以上ニシテ退官退職スルトキハ文武官ヲ比較シ恩給年額ノ多キ方ヲ給ス

3、增加恩給ハ戰鬪及戰時平時ニ拘ラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ左ニ揭クル事項ノ一ニ當ル者ニ退職恩給、免除恩給ノ外特ニ給スルモノトス

イ、兩眼ヲ盲シ若クハ二肢ヲ亡シタルトキ

ロ、前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

ハ、一肢ヲ亡シ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

ニ、前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

ホ、一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失ヒタルトキ

ヘ、前項ニ準スヘキ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ

4、戰鬪及戰時平時ニ拘ハラス公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ恩給ヲ受ケ又ハ之レヲ受ケスシテ現役ヲ離レタル後重症ニ趨キタル者左ノ期限內ニ檢查ヲ願出ツルトキハ策定ノ上相當ノ恩給ヲ給ス

イ、一眼ヲ盲シ若クハ一肢ノ用ヲ失フニ至リタルモノ若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ二個年

ロ、一肢ヲ亡ヒ若クハ二肢ノ用ヲ失ヒ若クハ兩眼ヲ盲シ若クハ二肢以上ヲ亡スルニ至リタル者若クハ之ニ準スヘキ者ハ現役ヲ離レタル日ヨリ三箇年

5、軍人左ノ各號ノ一ニ當リタルトキハ其寡婦ハ扶助料ヲ受クルノ權利アルモノトス

イ、戰死又ハ戰鬪ニ因ル負傷ノ爲メ死歿シタルトキ

ロ、公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ戰地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニ罹リ死歿シタルトキ

ハ、退職恩給若クハ免除恩給ヲ受ケ又ハ受クヘキ權利ヲ有シテ死歿シタルトキ

一、豫備役後備役ニ在ル者平時召集中職務ノ爲メ死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服務ニ堪ヘサルトキハ此法律ノ規定スル所ニ依リ恩給ヲ受クル權利ヲ有ス

一、給助金ノ支給ハ召集中職務ノ爲死歿シ又ハ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ服役ニ堪ヘサルトキハ現役者ト同視シ恩給ヲ受ク

一、死歿セシ將校下士ノ遺族ヘ下賜セラルヘキ給助金ハ當該軍人非

戸主ナルトキハ遺產相續人ヨリ請求スヘキ規定タリ就テハ若シ數人同時ニ遺產相續人トナルヘキトキハ其內一名ニ賜フ

一、戰後ノ恩賞ヲ賜ヒタルハ既ニ諸子ノ知レル所ナリ

國家擁護ノ責ヲ完クスルハ我日本帝國臣民男女老若ノ齊シク任スル處ナリト雖モ就中一旦緩急ニ際シ大元帥陛下ノ御稜威ヲ頭ニ戴キ國民ノ信賴ヲ負ヒ手ニ武器ヲ採リ彈丸飛雨ノ間ニ馳驅シ敵ヲ壓倒殲滅スルハ武門ノ譽ニシテ此光榮ト愉快ハ諸子軍人ニアラサレハ享クルヲ得ズ而シテ功ヲ樹テ其父母鄉黨ノ名ヲ擧ケ或ハ鋒鏑ニ斃レテ護國ノ神トナリ官幣大社ニ合祀セラレ共ニ氏名ヲ竹帛ニ垂ル焉ンゾ諸子義ハ山

露光量違いの為重複撮影

嶽ヨリモ重ク死ハ鴻毛ヨリモ輕シト覺悟セサルベケンヤ然レ𪜈忠臣楠公ハ斃ルヽモ尚止マス七度人間ニ生レテ敵ヲ惱シタリ諸子ノ戰場ニ於ケル須ク楠公ノ決心ヲ以テ決心トナサヽルベカラス

本書曩ニ諸子ニ訓ユルニ精神ノ修養、身体ノ強健ヲ以テシ本章ニ於テ戰場ニ於ケル心得ヲ說ケリ故ニ將來諸子カ國家ノ干城トシテ恥ツル所ナキヤ否ヤハ一ニ諸子ノ實行如何ニアリ諸子須ラク之ヲ勵ミ已レノ本分ヲ完フセヨ

露光量違いの為重複撮影

獄ヨリモ重ク死ハ鴻毛ヨリモ輕シト覺悟セサルベケンヤ然レ𪜈忠臣楠公ハ斃ルヽモ尚止マス七度人間ニ生レテ敵ヲ惱シタリ諸子ノ戰場ニ於ケル須ク楠公ノ決心ヲ以テ決心トナサヽルベカラス

本書曩ニ諸子ニ訓ユルニ精神ノ修養、身体ノ強健ヲ以テシ本章ニ於テ戰場ニ於ケル心得ヲ說ケリ故ニ將來諸子カ國家ノ干城トシテ恥ツル所ナキヤ否ヤハ一ニ諸子ノ實行如何ニアリ諸子須ラク之ヲ勵ミ已レノ本分ヲ完フセヨ

第八章　現行法規ノ摘要

其一、皇室ニ關スル法規

其二、普通人民トシテ法規ノ定ムル所ニヨリ届出ツヘキ場合

其三、自己ノ職業ニ關スル法規ヲ知レ

其四、軍事ニ關スル件

其五、一般ニ關スル件

其六、稅金ニ關スル件

其七、交通ニ關スル件

第八章　現行法規ノ摘要

其一　皇室ニ關スル法規

一、御歴代御諱並ニ御名文字ヲ人民一般名乘ルモ差支ナシ
但シ熟字ノ儘用ユルコトヲ得ス

一、皇族ノ外菊御紋ヲ禁止シ紛敷品ハ使用スヘカラス

一、菊御紋ハ由緒ノ有無ニ不關皇族ノ外總テ禁セラル御紋ニ紛敷品モ同樣ナリ

一、行幸ノ節其御道筋通行ノ者旗章ヲ見受ケナハ直ニ車馬ヲ下リ笠並帽等ヲ脫シ總テ路傍ニ立禮スヘキモノナリ

其二　普通人民トシテ法規ノ定ムル所ニヨリ屆出スヘキ場合左ニ身分及戸籍ニ關スル屆出ノ大要ヲ示ス詳細ハ町村役場ニ出頭シテ指示ヲ受クルヲ要ス

第一節　身分ニ關シ届出ッヘキトキ

一、身分ニ關スル届出ハ届出人ノ本籍地ノ戸籍吏ニ之ヲナスヘシ若シ届出人カ本籍地外ニアルトキハ其所在地ノ戸籍吏ニ届出ッルヲ得此場合ニハ正副二通ヲ作ルヲ要ス

一、届出ハ書面ヲ以テナスヲ要ス

一、届出ッヘキ事項左ノ如シ

子ノ生レタルトキ（私生子ヲ認知スルトキ）

棄兒ヲ發見シタルトキ

嫡出子ヲ否認スルトキ

養子緣組及離緣

婚姻、離婚

後見ノ開始

隱居スルトキ

失踪ノ宣告アリタルトキ

死亡シタルトキ

家督相續シタルトキ

推定家督相續人癈除ノトキ

家督相續人ノ指定ヲナシタルトキ

入籍、離籍、及復籍拒絕

廢家及絕家

分家及廢絕家再興

氏名及族稱ノ變更ヲナシタルトキ

身分登記ノ變更ヲ請求セントスルトキ

第二節　戸籍ニ關シ届出ッヘキトキ

轉籍セントスルトキ

就籍、除籍ノトキ

寄留スルトキ及復歸シタルトキ

其三　自己ノ職業ニ關スル法規ヲ知レ（請子兵籍白ニ記入セヨ）

其四　軍事ニ關スル件

○、現役下士兵卒及諸生徒ハ延期ヲ爲スコトヲ許サス但滿六年以上服役ノ者及ヒ歸休中ノモノハ此ノ限リニ在ラス

○、下士適任證書ハ各兵科各部ノ兵卒中志操確實、品行方正、勤務勉勵其ノ成績優秀ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ニ之ヲ附與ス

一、各兵科ノ上等兵中下士勤務ニ服シタル者其他當該兵科下士タルノ才能ヲ有スル者

一、各兵科ノ鞍（銃、木、鍛）工卒タル上等兵又ハ一等卒ニシテ鞍（銃、木、鍛）工長タルノ才能ヲ有スル者

一、各兵科ノ上等兵中計手勤務ニ服シタル者其他計手タルノ才能ヲ有スル者

一、上等縫工卒ニシテ縫工長、上等靴工卒ニシテ靴工長タルノ才

一、上等看護卒中看護長勤務ニ服シタル者其他衛生部下士タル才能ヲ有スル者

一、蹄鐵工卒タル上等兵又ハ一等卒ニシテ獸醫部下士タルノ才能ヲ有スル者

○、陸軍善行證書ハ現役下士卒在役中品行方正勤務勉勵學術技藝（職務）ニ熟達ナルモノヲ表彰スルモノトス

○、士官勤務適任證書ハ各兵科各部ノ下士及衛生部准士官中志操確實品行方正、勤務勉勵其ノ成績優秀ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ニ之ヲ附與ス

一、各兵科ノ曹長ニシテ當該兵科ノ豫備役及後備役士官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ有スル者

一、一等計手ニシテ豫備役後備役經理部士官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ有スル者

一、衛生部准士官下士ニシテ醫師免許證、醫術開業ノ免狀又ハ藥劑師免狀ヲ有シ豫備役、後備役軍醫又ハ豫備役後備役藥劑官ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ有スル者

一、獸醫部下士ニシテ獸醫免狀ヲ有シ豫備役後備役獸醫ノ勤務ニ必要ナル才能ヲ有スル者

一、一年志願兵ニシテ第一次勤務演習ニ及第シタルモノ

○徽章ノ種類

元帥徽章　待從武官長徽章

（陸軍ニ關スルモノ）

陸軍大學卒業徽章、戰時補助憲兵徽章、歩兵及工兵年度射撃褒賞徽章、騎兵馬術褒賞徽章、野戰砲兵照準褒賞徽章、重砲兵照準褒賞徽章、重砲兵觀測褒賞徽章、重砲兵通信褒賞徽章、

（海軍ニ關スルモノ）

海軍大學校甲種學生卒業者徽章、艦砲射撃優等徽章、艦砲射撃優等章、魚形水雷發射優等徽章、魚形水雷發射優等章、通信優等徽章、通信優等章、機關高力運轉優等徽章、機關高力運轉優等章、潜水艇修業徽章、潜水艇修業優等章

○現役下士兵卒ニ對シ請願休暇ハ左ノ場合ニ之ヲ許可セラル

一、下士兵卒ニアリテハ父母妻子重病又ハ死亡ノ爲メ歸鄉ヲ要スルトキ

一、下士兵卒ニシテ父母妻子重病又ハ死亡ノ爲メ歸鄉ヲ要スルトキハ父母其他親族ニ於テ願書ヲ作リ重病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ市區町村長又ハ之ニ準スヘキモノノ證明ヲ受ケ本人ヨリ所屬部隊長ニ差出スヘシ

一、休暇旅行中傷痍疾病其他己ムヲ得サル事故ニ依リ休暇日數ヲ經過スルトキハ下士兵卒ニ在リテハ醫師ノ診斷書又ハ市區町村長、驛長、船長等ノ證明書ヲ歸着後直ニ所屬部隊長ニ差出スヘシ

一、休暇中動員下令其他非常ノ事件生シタルコトヲ知リタルトキハ直チニ所屬部隊ニ復歸スヘシ

○陸軍々人ノ傷痍疾病ノ等差ヲ別テ一等症、二等症、三等症トス

1、一等症ハ左ニ揭クル事項ノ一ニ該ルモノ

イ、戰鬪ノ爲メ傷痍ヲ受ケタルモノ

ロ、公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルモノ

ハ、或地ニ於テ若クハ公務旅行中流行病ニカ、リタルモノ

ニ、以上各項ノ傷痍疾病一旦治癒ノ後再發シタルモノ

1、二等症ハ一等症三等症ノ事項外ニシテ傷痍疾病ニ罹リタル者

2、三等症ハ左ニ揭クル事項ノ一ニ該ルモノ

イ、服役後新ニ愛憐病ニ感染シタルモノ

ロ、私鬪ニ由テ傷痍ヲ受ケタルモノ
ハ、自ラ傷痍疾病ヲ作爲シタルモノ
ニ、以上各項ノ傷痍疾病一旦治癒ノ後再發シタルモノ
其五　一般ニ關スル件

○郡制

一、郡長ハ奏任ニシテ知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

一、郡長ハ行政事務ニ付其部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

一、郡長ハ町村長ノ處分成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

一、郡長ハ部下ノ判任官ノ進退ヲ知事ニ具申スルコトヲ得

一、郡長ハ法律命令ニ依リ又ハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得

○町村制

一、帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅二圓以上ヲ納ムルトキハ其町村ノ住民トス但貧困ノ爲メ公費ノ補助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者禁治產者、準禁治產者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此限リニ在ラス

一、町村公民ノ數町村會議員定數ノ三倍ヨリ少ナキ場合ニ於テハ町村ハ町村公民ノ要件ニ關シ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

一、町村公民ハ町村ノ選擧ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選擧セラルヽ權利ヲ有シ町村ノ名譽職ヲ擔任スル義務ヲ負フ

一、左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ニシテ名譽職ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ職ヲ辭シ若ハ其職務ヲ實際ニ執行セサルトキハ町村ハ一年以上四年以下其ノ町村公民權ヲ停止シ塲合ニ依リ其停止期間以内其ノ者ノ負擔スヘキ町村稅ノ十分ノ一以上四分ノ一以下ヲ增課スルコトヲ得

1、疾病ニカ、リ公務ニ堪エサル者

2、業務ノ爲メ常ニ町村内ニ居ルコトヲ得サル者

3、年齡六十年以上ノ者

4、官公職ノ爲町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

5、四年以上名譽職町村吏員、町會議員、又區議員ノ職ニ任シ辭後同一ノ期間ヲ經過セサル者

6、其ノ他町村會ノ議決ニ依リ正當ノ理由アリト認ムルモノ

一、町村公民左ニ揭ケタル要件ノ一ヲ欠キ又ハ同項但書ニ當ルニ至リタルトキハ其公民權ヲ失フ

一、町村公民租稅滯納處分中ハ其ノ公民權ヲ停止ス家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ其確定シタルトキヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ執行ヲ終ハリ若ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄亦同シ

一、陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與スルコトヲ得ス其ノ他ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ召集セラレタルトキ亦同シ

一、町村ハ町村住民ノ權利義務又ハ町村ノ事務ニ關シ町村條例ヲ設クルコトヲ得

一、町村公民ハ總テ選擧權ヲ有ス但シ公民權停止中ノ者陸海軍ニアルモノハ此ノ限リニ在ラス

一、選擧權ヲ有スル町村公民ハ被選擧權ヲ有ス
左ニ揭クル者ハ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一月ヲ經過セサル者亦同シ
1、所屬府縣郡ノ官吏及有給吏員
2、其ノ町村ノ有給吏員
3、檢事警察官吏及收稅官吏
4、神官神職僧侶其ノ他諸宗教師
5、小學校敎員

一、町村ニ對シ請負ヲ爲ス者及其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員重役及支配人ハ其ノ町村ニ於テ被選擧權ヲ有セス

一、父子兄弟タル緣故アル者ハ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス其ノ同時ニ選擧セラレタルトキハ同級ニ在リテハ得票ノ數ニ

依リ其ノ多キ者一人ヲ當選者トシ同數ナルトキ又ハ等級ヲ異ニシテ選擧セラレタルトキハ年長者ヲ當選者トス其ノ時ヲ異ニシテ選擧セラレタルトキハ後ニ選擧セラレタル者議員タルコトヲ得ス

一、議員トナリタル後前項ノ緣故ヲ生シタル場合ニ於テハ年少者其職ヲ失フ

一、町村長又ハ助役ト父子兄弟タル緣故アル者ハ町村會議員ノ職ニ在ルコトヲ得ス

一、町村會ハ町村ニ關スル事件及法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事件ヲ議決ス

一、町村長ハ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

一、町村內ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滯在スルコトナシト雖モ町村內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ町村內ニ營

業所ヲ設ケテ營業ヲ爲シ又ハ町村内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業者若ハ其ノ收入ニ對ン又ハ行爲ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムル義務ヲ負フ

一、町村税ノ賦課ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ當該吏員ハ日出ヨリ日沒迄ノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間内家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢查ヲナスコトヲ得

一、町村税、使用料、手數料、加入金、過料、過怠金其ノ他ノ町村收入ヲ定期内ニ納メサル者アルトキハ町村長ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ此場合ニハ町村條例ノ定ムル所ニヨリ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

○官吏服務紀律

第一條　凡ソ官吏ハ、天皇陛下及　天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ

第二條　官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述フル事ヲ得

第三條　官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス

官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハス威權ヲ濫用セス謹愼懇切ナルコトヲ務ムヘシ

第四條　官吏ハ已ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトヲ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テ亦同樣トス裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限リ供述スルコトヲ得

第五條　官吏ハ私ニ職務上未發ノ文書ヲ關係人ニ漏示スル事ヲ禁ス

第六條　官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ檀ニ職務ヲ離レ及職務上居

住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス、

第七條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ直接ト間接トヲ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給竝贈遺ヲ受クルニハ　天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條　左ニ揭ケタルモノト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

一、官廳ノ工事ヲ受負フ者

一、官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者

一、官廳ノ補助金ヲ受ル起業者

一、官廳ノ用品ヲ調達スル者

一、官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者

第十條　凡ソ上官タルモノハ職務ノ内外ヲ問ハス所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　官吏竝其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ラサレハ直接ト間接トヲ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條　官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス

第十三條　官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非ラサレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス

第十五條　官吏ハ私立郵船會社又ハ私立鐵道會社ヨリ無賃乘船無賃乘車切符ヲ受クルコトヲ得ス

○官吏公衆ニ對シ政事上學術上ノ意見ヲ演說又ハ叙述ノ件

官吏タルモノハ自今其職務外ト雖公衆ニ對シ政事上又ハ學術上ノ意見ヲ演說シ又ハ之レヲ叙述セントスルトキハ各長官ノ許可ヲ受クヘシ

法律規則ヲ以テ特ニ制限セラレタル官吏ハ前項ノ限リニ在ラス

○左ニ揭ケタル者ハ後見人タルコトヲ得ス

一、未成年者
二、禁治產者及準禁治產者
三、剝奪公權者及ヒ停止公權者
四、裁判所ニ於テ免黜セラレタル決定代理人又ハ保佐人
五、破產者
六、被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族
七、行方ノ知レサル者

八、裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認メタル者

○左ニ揭クル者ハ政事上ノ結社ニ加入スルコトヲ得ス

一、現役及召集中ノ豫備後備ノ陸海軍々人
二、警察官
三、神官、神職、僧侶、其他諸宗教師
四、官立、公立、私立、學校教員、學生、生徒
五、女子
六、未成年者
七、公權剝奪及停止中者

○警察犯處罰令

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

一　故ナク人ノ居住若ハ看守セサル邸宅、建造物及船舶內ニ潛伏

シタル者

二　密賣淫ヲ爲シ又ハ其ノ媒合若ハ容止ヲ爲シタル者

三　一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

四　故ナク面會ヲ强請シ又ハ强談威迫行爲ヲ爲シタル者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　合力、喜捨ヲ强請シ又ハ强テ物品ノ購買ヲ求メタル者

二　乞丐ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

三　濫ニ寄附ヲ强請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ强テ物品、入場券等ヲ配附シタル者

四　入札ノ妨害ヲ爲シ又ハ共同入札ヲ强請シ若ハ落札人ニ對シ其事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ强請シタル者

五　他人ノ業務ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲ爲シタル者

六　新聞紙雜誌其ノ他ノ方法ヲ以テ誇大又ハ虛僞ノ廣告ヲ爲シ不正ノ利益ヲ圖リタル者

七　新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告揭載ニ付强テ其ノ申込ヲ求メタル者

八　申込ナキ新聞紙、雜誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ爲シ其ノ代料ヲ請求シタル者

九　祭事、祝儀又ハ其ノ行列ニ對シ惡戲又ハ妨害ヲナシタル者

十　自己占有ノ場所內ニ老幼、不具又ハ疾病ノ爲扶助ヲ要スル者若クハ人ノ死屍、死胎アルコトヲ知リテ速ニ警察官吏ニ申告セサル者

十一　前項ノ死屍、死胎ニ對シテ警察官吏ノ指揮ナキニ其ノ現場ヲ變更シタル者

公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ喧噪シ、橫臥シ又ハ泥

酔シテ徘徊シタル者

十二　公衆ノ自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ濫ニ車馬舟筏其ノ他ノ物件ヲ置キ又ハ交通ノ妨害トナルヘキ行爲ヲナシタル者

十三　公衆自由ニ交通シ得ル場所ニ於テ危險ノ虞アルトキ點燈其ノ他ノ豫防ノ裝置ヲナスノ義務ヲ怠リタル者

十四　劇場、寄席其ノ他ノ公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲナシタル者

十五　雜沓ノ場所ニ於テ制止ヲ肯セス混雜ヲ增スノ行爲ヲナシタル者

十六　人ヲ誑惑セシムヘキ流言浮說又ハ虛報ヲナシタル者

十七　妄ニ吉凶禍福ヲ說キ又ハ祈禱、符呪等ヲナシ若ハ守札類ヲ授與シテ人ヲ惑ハシタル者

十八　病者ニ對シ禁厭、祈禱、符呪等ヲナシ又ハ神符、神水等ヲ

與ヘ醫療ヲ妨ケタル者

十九　濫ニ催眠術ヲ施シタル者

二十　官職、位記、勳爵學位ヲ詐リ又ハ法令ノ定ムル服飾、徽章ヲ僭用シ若ハ之ニ類似ノモノヲ使用シタル者

二十一　官公署ニ對シ不實ノ申述ヲナシ又ハ其義務アル者ニシテ故ナク申述ヲ肯セサル者

二十二　人ノ飲用ニ供スル淨水ヲ汚穢シ又ハ其ノ使用ヲ妨ケ若ハ其ノ水路ニ障碍ヲナシタル者

二十三　河川溝渠又ハ下水路ノ疏通ヲ妨クヘキ行爲ヲナシタル者

二十四　自己又ハ他人ノ身體ニ刺文シタル者

二十五　出入ヲ禁止シタル場所ニ濫ニ出入シタル者

二十六　官公署ノ榜示若ハ官公署ノ指揮ニ依リ榜示セル禁條ヲ犯シ又ハ其ノ設置ニ係ル榜標ヲ汚瀆シ若ハ撤去シタル者

二十七　水火災其ノ他ノ事變ニ際シ制止ヲ肯セスシテ其現場ニ立入リ若ハ其場所ヨリ退去セス又ハ官吏ヨリ援助ノ求ヲ受ケタルニ拘ラス傍觀シテ之ニ應セサル者

二十八　濫ニ他人ノ標燈又ハ社寺、道路、公園其ノ他ノ公衆用ノ常燈ヲ消シタル者

二十九　他人ノ田野園圃ニ於テ菜果ヲ採摘シ又ハ花卉ヲ採折シタル者

三十　使用者ニシテ勞役者ニ對シ故ナク其自由ヲ妨ケ又ハ苛酷ノ取扱ヲナシタル者

三十一　濫ニ他人ノ身邊ニ立塞リ又ハ追隨シタル者

三十二　他人ノ身體、物件又ハ之ニ害ヲ及ホスヘキ場所ニ對シ物件ヲ拋撓シ又ハ放射シタル者

三十三　神祠、佛堂、禮拜所、墓所、碑表、形像其ノ他之ニ類スル物ヲ汚瀆シタル者

三十四　人ノ死屍死胎ヲ隱匿シ又ハ他物ニ紛ハシク擬裝シタル者

三十五　一定ノ飮食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リタル者

三十六　不熟ノ果物、腐敗肉類其ノ他健康ヲ害スヘキ飮食物ヲ營利ノ用ニ供シタル者

三十七　濫ニ他人ノ繫キタル舟筏牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ廿圓未滿ノ科料ニ處ス

一　許可ナクシテ人ノ死屍又ハ死胎ヲ解剖シ又ハ之レカ保存ヲナシタルモノ

二　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ袒裼、裸程シ又ハ臀部股部ヲ露ハシ其ノ他醜態ヲナシタル者

三　街路ニ於テ屎尿ヲナサシメタル者

四　濫ニ銃砲ノ發射ヲナシ又ハ火藥其ノ他劇發スヘキ物ヲ玩ヒタル者

五　家屋其ノ他ノ建造物若ハ引火シ易キ物ノ近傍又ハ山野ニ於テ濫ニ火ヲ焚ク者

六　石灰其他ノ自然發火ノ虞アル物ノ取扱ヲ怠ニシタル者

七　開業ノ醫師、産婆故ナク病者又ハ姙婦、産婦ノ招ニ應セサル者

八　故ナク官公署ノ召喚ニ應セサル者

九　炮煮、洗濯、剝皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列シタル者

十　濫ニ禽獸ノ死屍又ハ汚穢物ヲ棄擲シ又ハ之レカ取除ノ義務ヲ怠リタル者

十一　監置ニ係ル精神病者ノ監護ヲ怠リ屋外ニ徘徊セシメタル者

十二　濫ニ犬其ノ他ノ獸類ヲ嗾シ又ハ驚逸セシメタル者

十三　狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ逸走セシメタル者

十四　公衆ノ目ニ觸ルヘキ場所ニ於テ牛馬其ノ他ノ動物ヲ虐待シ

タル者

十五　濫ニ他人ノ家屋其ノ他ノ作物ヲ汚濟シ若ハ之ニ貼紙ヲナシ又ハ他人ノ標札、招牌、廣告、賣貸家札其ノ他標榜ノ類ヲ汚濟若ハ撤去シタル者

十六　橋梁又ハ堤防ヲ損壞スルノ虞アル場所ニ舟筏ヲ繫キタル者

十七　通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ此ニ牛馬諸車ヲ牽入レタル者

第四條　本令ニ規定シタル違反行爲ヲ敎唆シ又ハ幇助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情狀ニ依リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

○勳章記章褒章ノ佩用取締規則摘要

一、勳章又ハ布告、勅令ニ依リ制定セラレタル各種記章、褒章ヲ潛用シタル者又ハ其ノ佩用ノ停止ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處セラル外國勳章、記章ノ佩用禁止若クハ停止ニ違反シタル者又ハ佩用免許狀ナクシテ佩用シ

タル者亦同シ

一、勳章又ハ布告、勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章、褒章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處セラル外國勳章ニ類似シタル標章ヲ佩用シタルモノ亦同シ

一、日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ依リ變更ヲ受クルコトナシ

○軍隊並砲車輜重車ニ對シ一般ノ車馬途上避讓方

途上ニ於テ車馬ニ行逢フ時ハ互ニ左方ヘ避讓スヘキモ軍隊並ニ砲車輜重車ニ行逢ヒタル時ニ限リ右方ヘ避讓スヘキモノナリ

○古墳發堀ヲ禁スル件

上世以來御陵墓ノ所在未定ノ分即今取調中ニ付各管内荒蕪地開墾ノ節口碑流傳ノ場所ハ勿論其他古墳ト相見ヘ候地ハ猥リニ發堀爲致スヘカラス

其六　稅金ニ關スル件

◎諸稅納期一覽表

北海道沖繩其他ニ於ケル特別ノモノハ之ヲ除ク　府縣及市町村附加稅ハ大抵國稅ノ納期ト同一ナリ

	市街宅地（五分）	所得稅第三種（第三期分）
一月	地租第三期（田方二分五厘）　前年十二月十六日ヨリ本年十五日迄	
二月	地租第四期（田方二分五厘）　酒造稅第三期	
三月	地租第五期（田方二分五厘）　所得稅第三種（第四期分）　酒造稅第四期	
四月		
五月	地租第六期（田方二分五厘）　營業稅前半期分	
六月		
七月	地租市街宅地（五分）　酒造稅第一期	
八月		
九月	地租第一期（畑方郡村宅地山林原野牧場五分）　所得稅第三種（第一期分）	
十月	酒造稅第二期	
十一月	地租第二期（畑方其他五分）　所得稅第三種（第二期分）　營業稅後半期分	
十二月	地租第三期（田方二分五厘）　十六日ヨリ翌年一月十五日迄	

◎地租稅率

宅地　地價百分ノ二、五　田畑　地價百分ノ四、七　其他ノ土地　地價百分ノ五、五

◎印紙稅法

一證書ニ關シテハ一通毎ニ其記載金高五圓以上ノモノニ限リ左ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

記載金高一萬分ノ五

一左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ帳簿ハ一冊一年以内ノ附込ニ對シ左ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一委任狀（印紙稅　貳錢）

一爲替手形、一銀行預金證書、一船荷證券、一運送貨物引換證、一倉荷預證券、一倉荷預入證券、一保險證券、一債券、一株式申込證、一物品切手、一賣買仕切書、一送狀、一受取書、一金高記載ナキ證書、一通帳、一定款及組合契約書、一權利ノ變更ニ關スル證書、一追認承認ニ關スル證書、一地上權、一永小作權地役權ニ關スル證書、一使用貸借、賃貸借、雇傭、寄託、定期金ニ關スル契約證書、一擔保品預證書（以上印紙稅　參錢）

一判取帳（印紙稅　貳拾五錢）

一約束手形

金高	貳百圓以下	參錢
同	千圓以下	五錢
同	貳萬圓以下	壹圓
同	參萬圓以下	貳圓
同	五萬圓以下	金高　五千圓以下　拾錢
		同　壹萬圓以下　貳拾五錢
		同　拾萬圓以下　五圓
		同　拾萬圓以上　七圓

一左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿、一官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル件ノ寄附ニ關シ人民ヨリ官廳若クハ公署ニ提出スル證書、一俸給、給料、歲費、手當金、賞與金、年金、恩給金、扶助料、旅費及救恤金ノ受取書、小切手、一金高五圓未滿ノ爲替手形、約束手形、一金高壹圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書、運送契約ニ依ラサル送狀、一金高五圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ非營業者ニ發スル賣買仕切書、一主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約、一證券ノ裏書及手形ノ裏面ニ記載シタル受取書、一株券債券ノ讓渡ヲ證明スヘキ裏面記載、一手形ノ引受保證、一手形及證券ノ拒絶證書、一手形及證券ノ謄本、謄本

一印紙稅ハ證書、帳簿ニ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス　但シ印紙稅額ニ相當スル現金ヲ政府ニ納付シテ稅印ノ押捺ヲ受ケ印紙貼用ニ代フルコトヲ得

一一冊ノ帳簿ヲ一年以上使用スルトキハ別帳簿ヲ調製シタルモノト看做ス

◎所得稅率

種別	本稅額	非常特別稅額
第一種 法人ノ所得	千分ノ二十五	(甲)株主二十一人以上又ハ株主及社員ノ數二十一人以上ヲ以テ組織シタル株式合資會社 本稅額十五割
		(乙)其他ノ法人
		所得五千円未滿 本稅額八割
		仝一万円仝 仝九割
		仝一万五千円仝 仝十割
		仝二万円仝 仝十二割
		仝三万円仝 仝十七割
		仝五万円仝 仝廿三割
		仝十万円仝 仝三十割
		仝十万円以上 仝四十割

種別	本稅額	非常特別稅額
第二種 本法施行地ニ於テ仕拂フ公債社債ノ利子	千分ノ二十	
第三種 前各種ニ屬セザル所得		
三百円以上	千分ノ十	所得五百円未滿 本稅額十割
五百円仝	仝十二	仝千円仝 仝十一割
千円仝	仝十五	
二千円仝	仝十七	仝五千円仝 仝十三割
三千円仝	仝二十	
五千円仝	仝二十五	仝一万円仝 仝十四割
一万円仝	仝三十	仝一万五千円仝 仝十五割
一万五千円仝	仝三十五	仝二万円仝 仝十七割
二万円仝	仝四十	仝三万円仝 仝十九割
三万円仝	仝四十五	仝五万円仝 仝廿一割
五万円仝	仝五十	仝十万円仝 仝廿四割
十万円仝	仝五十五	仝十万円以上 仝廿七割

備考 軍備補充及臨時事件費支辨ノ爲メ明治三十七年以降政府ノ發行スル國債證券ノ利券貯蓄債券ノ利子ハ免稅トス

營業稅率

(營業者ヲ除キ十五歲未滿ノ從業者ニ付テハ二分ノ一ト)

業名	課稅標準	稅率
物品販賣業	賣上金額	卸賣 万分ノ十二
	建物賃貸價格	小賣 万分ノ卅六
	從業者	千分ノ九十
銀行業 保險業	資本金額	千分ノ五
	建物賃貸價格	千分ノ九十
	從業者	一人每ニ貳圓
金錢貸付業 物品貸付業	運轉資本金額	千分ノ六半
	建物賃貸價格	千分ノ九十
	從業者	一人每ニ貳圓
製造業 印刷業 出版業 寫眞業	資本金額	千分ノ三、七
	建物賃貸價格	千分ノ九十
	從業者	一人每ニ貳圓
	職工勞役者	一人每ニ五拾錢
運送業、運河業、後橋業、船舶業、貨物陸揚場業	資本金額	千分ノ六
	從業者	一人每ニ貳圓

業名	課稅標準	稅率
倉庫業	資本金額	千分ノ五
	建物賃貸價格	千分ノ四十五
	從業者	一人每ニ貳圓
鐵道業	收入金額	千分ノ二十五
	從業者	一人每ニ貳圓
請負業	請負金額	千分ノ五
	從業者	一人每ニ貳圓
席貸業 料理店業	建物賃貸價格	千分ノ百卅五
	從業者	一人每ニ貳圓
旅人宿業	建物賃貸價格	千分ノ九十
	從業者	一人每ニ貳圓
周旋業 代理業	報償金額	千分ノ三十五
	從業者	一人每ニ貳圓
仲立業 問屋業 信託業	報償金額	千分ノ卅七半
	從業者	一人每ニ貳圓

其七　交通ニ關スル件

郵便電信爲替貯金電話

注意事項

内國郵便（日清郵便ヲ含ム）

一、郵便物ハ送達先ノ遠近又ハ其品質形狀ニ從ヒ堅固ニ包裝スルコト

一、郵便物ノ表記ハ楷書又ハ行書ヲ用ヒ其肩書ハ府縣名ヲ冠シ成ルヘク詳細ニ記シ尚配達局ノ知レ居ルモノハ「何々郵便局區内」ト上部ニ併セ記スルコト

一、郵便切手ハ成ル可ク高額ノモノヲ用ヒ封筒表面ノ上部左方ノ隅ニ貼ルコト

一、公安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スヘキ文書圖畫其他ノ物件及爆發性發火性其他郵便吏員ニ危害ヲ加ヘ又ハ郵便物ニ損害ヲ與フヘキ物件ハ郵便ニ差出サヽルコト

一、小包郵便物ニ書狀ヲ封入セサルコト

一、書留又ハ價格表記ノ郵便物ヲ受取ルトキハ外部ニ破損ノ痕跡ナキヤ否又重量ニ變リナキヤ否注意ヲナスコト

一、代金引換又ハ留置郵便物ノ到着通知ヲ受ケタルトキハ速ニ受取ノ手續ヲナスコト

内國電報

一、電報ノ文字ハ記載方亂雜ナルモノ又ハ字劃正シカラサルモノハ自然誤謬ヲ生シ易キヲ以テ正確明瞭ニ記載スルコト

一、長文ノ電報ニハ濁點、半濁點アル文字ノ後ニ成ルヘク相當ノ空欄ヲ設ケ字數計算ヲ容易ナラシムルコト

一、賴信紙ニ貼付スル郵便切手ハ成ルヘク高額ノモノヲ用ヒ且剝落ノ慮ナキ樣貼附スルコト

一、万一他人ニ宛テタル電報ノ誤配達ヲ受ケタルトキハ其ノ由ヲ符箋シ直ニ之ヲ配達シタル電信局所ニ返戻セラルヘク決シテ其受

取本人へ直送シ又ハ手渡セサルコト

一、返信料前納證書ハ使用期間（證書發行ノ日ヨリ三十日間）中ナレハ返信ノミニ限ラス其ノ他ノ電報ニモ隨時使用シ又ハ他人ニ流用セシムルモ妨ナキモノナレハ成ルヘク之ヲ利用スルコト

電　話

一、電話ヲ利用セントスル人ハ其地ノ電話番號等ニ掲載シアル注意書等ヲ熟覽シ置キ尚ホ成ルヘク實地取扱ノ模樣ヲモ一覽シ置カルレハ一層便利ナルヘキコト

一、一般ノ交換手ニ對シテハ通話取扱ノ請求上必要ナルコトノ外談話ヲナサス電線機械等ノ故障又ハ電話番號ノ問合等ハ各係ニ申出テラルヽコト

一、電話ヲカケル爲把手ヲ廻ストキハ永ク廻セハ却テ交換手ノ應答遲レル惧アルヲ以テ一二回ニ止ムルコト

一、通話濟タルトキハ必ス受話器ヲ掛金物ニ掛ケ置クコト

一、通話中ニハ妄リニ把手ヲ廻シ又ハ受話器ノ掛金物ニ觸レサルコト

一、加入區域外ヘノ通話待合セ中ハ合圖アリ次第何時ニテモ直ニ通話シ得ラルヽ樣用意シ居ラルルコト

一、通話中交換手カ通話中ナルヤ否ヤヲ確ムル場合話聲聞エス且ツ話中トノ答モナキトキハ切斷スルコトアルヲ以テ電話機ノ側ヲ離ルヽトキハ對話者ヘ其旨ヲ通シ置カルヽコト

一、電話料前納證書（呼出通話券）ハ其有効期間内ナルトキハ返信ノミニ限ラス其他ノ通話ニモ隨意使用シ又ハ他人ニ流用セシムルモ妨ナキモノニ付成ヘク之ヲ利用スルコト

內國郵便爲替

(1) 爲替證書安全且低廉ニ受取人ニ送付スル——證書送達——ノ一、郵便爲替ニハ左ノ便法アリ

方法アリ

(ロ)受取人ノ居宅ニ就キ拂渡ヲナス——居宅拂——ノ方法アリ

(ハ)常ニ巨額ノ送金ヲナス者ノ爲ニ——高額爲替——ノ制アリ

(ニ)電信爲替ニシテ尙ホ一層速達ヲ要スルトキハ至急電報——證書別配達ノ方法ノ外證書ヲ郵便局留置ノ便法アリ

一、郵便爲替ノ詐取ヲ防ク方法トシテハ

(イ)案内書ニ徽號其他暗號ヲ附セヨ

(ロ)拂渡猶豫ノ方法ヲ利用セヨ

(ハ)拂渡濟通知ノ請求ヲナセ

振替貯金

一、振替貯金——料金低廉——無料通信——計算確實——送金安全運用利殖ノ特長アリ

一、振替貯金ハ巨額ノ取引ヲ爲ス銀行會社ヲ始メ小口ノ受拂ヲ爲ス

商店、倶樂部、協會等ハ勿論子弟ノ學資送金等ニ利用シテ最モ德用利便ナリ

一、振替貯金ノ拂込書ハ私製ノモノヲ使用スルコトヲ得

一、拂込書ハ拂出書ニ記載スル金額ノ抹消訂正ヲ許サス

一、拂込書拂出書ニ記載スル金額ノ一、二三及十ノ數字ハ必ス壹弐參及拾ノ文字ヲ用ユヘシ

外國郵便

一、外國宛郵便物ノ包裝ハ殊ニ堅固ニスルコト

一、外國宛郵便物差出人ハ名宛人ノ居所氏名ヲ成ル可ク歐文ニテ明瞭ニ認ムルコト能ハサルトキハ封皮ノ表面ノ一隅ニ小サク和文ニテ認ムルコト

一、郵便切手ハ成ル可ク高額ノモノヲ用ヒ封皮表面ノ上部右方ノ隅ニ貼ルコト

一、外國宛郵便物ニ封入シ差出スコトヲ得サルモノハ畧ホ内國郵便ト仝シ詳細ハ郵便局ニ就キ承合スルコト

一、書留ハ代金引換償格表記又ハ留置ノ郵便物ノ受取方ノ注意ニ付テハ内國郵便ト仝シ

一、最モ迅速ニ歐洲及南米諸國ニ通常郵便物ヲ送ラントスル片ハ郵便物ノ封皮表面ニ「西比利亞經由」ト記載スルコト

一、外國ニ在ル人ヨリ何等ノ出費ヲ負ハセスニ書狀ニ依ル通信ヲ得ントスル片ハ國際返信切手券ヲ購ヒ之ヲ其人ニ送付スルコト

外國小包郵便

一、外國小包郵便物ヲ差出ストキハ其ノ名宛面ニ米國小包、英國小包其ノ他小包ノ名稱及遞送線路ヲ記載スルコト

一、外國小包郵便物ハ遞送ノ距離ニ應シ其ノ包有品ヲ保護スル樣充分ノ手當ヲ加ヘテ包裝シ米國小包ヲ除ク外ハ必ス封緘ヲ施スコト又露國及仝媒介小包ハ紙又ハ「ボール」紙等ニテ包裝スヘカラサルコト

一、外國小包郵便物ノ稅關告知書ニ記載スヘキ包有品ハ其ノ數量及價格ヲ品別ニ正確ニ記載シ其品名、數量及價格ヲ僞リ又ハ總括シテ記入セサルコト

一、外國小包郵便物ニ對スル料金納付用ノ切手ハ其自体ニ貼付スヘク包裝ノ損傷ヲ隱蔽スルニ使用シ又ハ包裝ノ緣端ヲ掩蔽スル樣二面ニ跨テ貼付セサルコト

外國電報

一、電報ノ文字ハ誤讀ノ虞ナキ樣正確明瞭ニ記載スルコト

一、電報ノ名宛記載方不充分ナル片ハ遲着又ハ不達等ノ事故ヲ釀スコトアルニ付成ルヘク詳細ニ之ヲ記載スルコト

一、電報ハ其ノ經過線路ニ依リ送達ニ遲速アリ料又金ニ差異アルモ

ノナレハ發信人ハ自ラ其電報ヲ經過セシメントスル線路ヲ指定スルヲ利便トス

外國郵便爲替

一、外國爲替振出請求書ニハ名宛人及差出人ノ居所氏名ヲ羅甸字及邦字(又ハ漢字)ヲ以テ詳細ニ明記スヘシ但シ日本人ノ氏名ハ羅甸字ノ代ニ字傍ニ振假名ヲ施スヲ以テ充分ナリ

一、外國爲替劵ハ総テ差出人ニ交付セス郵便官署ニ於テ之ヲ名宛人ニ送達ス但シ香港宛爲替ヲ交換局ニ於テ振出ス塲合ニ於テハ爲替劵ハ差出人ニ交付スルヲ以テ差出人ハ自費ヲ以テ之ヲ名宛人ニ送付スルヲ要ス

○内外郵便電信料一覽表

通常郵便料

種類	種別	重量	郵税
第一種	書狀 印刷シタル無封ノ書狀	四匁又ハ其端數毎ニ 十匁又ハ其端數毎ニ	錢厘 三〇 二〇
第二種	葉書	通常葉書 往復葉書 封緘葉書	一五 三〇 三〇
第三種	毎月一回以上刊行スル定期刊行物	二十匁又ハ其端數毎ニ	五
第四種	書籍印刷物寫眞書畫業務用書類見本雛形標本 廣告郵便物 第三種郵便物ニアラサル印刷物ニシテ毎月一回以上刊行ノ約束郵便物	三十匁又ハ其端數毎ニ 百通迄毎ニ…… 全時ニ三千一通以上ヲ差出ストキハ三千一通分ヨリ百通迄毎ニ 三十匁又ハ其端數毎ニ	二〇 一二〇 一四〇 一〇〇 一〇
第五種	農産物種子	三十匁又ハ其端數毎ニ	一〇

○通常郵便物制限　通常郵便物ノ容積ハ其長一尺三寸幅八寸五分厚五寸ヲ限トシ重量ハ第三種乃至第五種郵便物ニ在リテハ三百匁商品見本及雛形ニ在リテハ百匁ヲ超過スヘカラス

○廣告郵便物制限　廣告郵便物ハ一通二匁ヲ超過スルコトヲス

特殊郵便料

摘要	料金
一 別配達料 陸上二里以内 二里ヲ超過シタルトキハ一里迄毎ニ 解送料ハ別ニ其實費額ヲ受取人ヨリ徴收ス受取人之ヲ絶付セサルトキハ差出人ヨリ徴收ス	二〇〇 一五〇
臺灣及樺太島内 市内 市外三里迄 三里以上ハ十八丁迄毎ニ下ノ料金ヲ加徴ス	一〇〇 六〇〇 一〇〇
未定里程ニ對シテハ金六十錢ヲ前納セシメ其不足額ハ受取人又ハ差出人ヨリ徴收ス	
二 留置通知料	三〇
三 引受時刻證明料	一五〇
四 配達證明料	三〇
五 書留料	七〇
六 價格表記料 書留郵便物ノ料金ヨリ普通郵便料ヲ差引タル金額ノ外通貨ハ表記金額十円迄毎ニ其他ノ物件ハ表記金額十円迄毎ニ	一〇〇 五〇
七 代金引換料 一口ニ付 取立金送達料引換金額拾圓迄 仝拾圓以上百圓迄拾圓毎ニ 仝百圓以上千圓迄拾圓毎ニ	五〇 五〇 四〇 三〇
八 現金取立料 一口ニ付 取立金送達料引換金額拾圓迄 仝拾圓以上百圓迄拾圓毎ニ 仝百圓以上千圓迄拾圓毎ニ	五〇 五〇 四〇 三〇

備考

別配達郵便物ト爲シ得ルモノハ書留又ハ價格表記ノ郵便物ニ限ル配達證明ト爲シ得ルモノハ書留又ハ價格表記ノ通常郵便物及小包郵便物ニ限ル、引受時刻證明ト爲シ得ルモノハ書留通常郵便物ニ限ル、價格表記郵便物ハ金額千円迄ニ限ル、代金引換ハ價格表記ノ郵便物及ヒ書留小包郵便物ニシテ金額千円迄ニ限ル、現金取立ハ代金受領證株式配當券公債又社債ハ利券保險掛金受領證等持參人ニ支拂ハルヘキモノニシテ金額一口千円迄ニ限ル

速達郵便料

一郵便物ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ速達取扱ト爲スコトヲ得、一郵便物ノ速達地域ハ別ニ之ヲ告示ス

一郵便物ノ速達取扱ニ要スル料金ハ左ノ如シ

(イ) 仝一郵便區市内相互間　一箇ニ付　金六錢

(ロ) 二個郵便區市内相互間　一箇ニ付　金十二錢

仝一ノ差出人ヨリ仝一ノ受取人ニ宛テ仝時ニ二箇以上差出ストキハ内一箇ヲ除キ他ハ前記料金ノ半額トス

一速達小包郵便物ノ重量ハ六百匁ヲ超過スヘカラス

一速達郵便物ニハ其表面見易キ場所ニ「速達」ノ文字ヲ朱記スヘシ

一速達郵便物ノ差出人ハ電話其ノ他適宜ノ方法ニ依リ豫メ其ノ郵便物ノ種類、數量、引渡時刻等ヲ所轄郵便局所ニ通告シ其ノ居所ニ於テ之カ引受方ヲ請求スルコトヲ得

此ノ請求ヲナス場合ニハ手數料一箇ニ付金三錢ヲ納付スヘシ但シ仝時ニ仝一ノ受取人ニ二個以上ヲ差出ストキハ内一個ヲ除キ他ハ一個ニ付金一錢トス

一速達郵便物ノ差出人ハ該郵便物配達ノ際受取人ノ居所ニ於テ其ノ受取人ノ差出スヘキ速達郵便物ノ引受方ヲ豫メ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ表面看易キ場所ニ「要返信」ノ文字ヲ記入シ且適宜ノ用紙ニ必要ノ事項ヲ記入シテ差出スヘシ受取人ハ此郵便物ヲ受取リタルトキハ十分以内ニ差出郵便物ヲ其配達人ニ引渡スヘシ此場合ニ於テ之ニ對スル一切ノ料金ハ差出人ニ於テ前納スルモ受取人ニ於テ納附スルモ妨ケナシ

內國郵便爲替

爲替證書金額
- 通常爲替
- 電信爲替
- 小爲替

證書一枚ニ付
- 金百圓以內
- 金百圓以內
- 金五圓以內

通常爲替及小爲替ノ金額ハ錢位未滿、電信爲替ノ金額ハ圓位未滿ノ端數ヲ付スルコトヲ得サルモノトス

高額爲替 振出局經由管理局長ノ認可ヲ受ケ制限額以上ヲ振出スコトヲ得

證書有效期間 通常爲替、電信爲替九十日、小爲替六十日

郵便爲替料金

通常爲替料
- 內地、臺灣、樺太、朝鮮各地相互間 金十圓迄六錢 以上十圓ヲ增ス每ニ四錢ヲ增ス
- 在清國(滿洲ヲ含ム)郵便局相互間及仝局ト其以外ノ郵便局間 金十圓迄十錢 以上十圓ヲ增ス每ニ十錢ヲ增ス

電信爲替料
- 內地 十圓迄三十錢 以上十圓ヲ增ス每ニ五錢ヲ增ス
- 內地、臺灣間 十圓迄五十錢 以上十圓ヲ增ス每ニ十錢ヲ增ス
- 內地ト樺太、朝鮮及在清國(滿洲ヲ含ム)郵便局相互間 十圓迄八十錢 以上十圓ヲ增ス每ニ十錢ヲ增ス
- 在清國(滿洲ヲ含ム)郵便局相互間及仝局ト朝鮮郵便局相互間 十圓迄四十錢 以上十圓ヲ增ス每ニ十錢ヲ增ス
- 臺灣、樺太、朝鮮內電信爲替料ハ內地ト仝シ

小爲替料
- 內地、臺灣、樺太、朝鮮及以上各地ト內地相互間 五圓以內三錢
- 在清國(滿洲ヲ含ム)郵便局相互間及仝局ト其以外ノ郵便局間五圓以內五錢

小包郵便料

種別量目	仝一郵便區內	仝一郵便區外	內地臺灣樺太間	內地、朝鮮及日本清國間
二百匁迄	普通書留 四錢 八	普通書留 八 一二	普通書留 二〇 三〇	三〇
四百匁迄	四錢 八	一二 一八	三〇 四〇	四〇
六百匁迄	四錢 八	一六 二四	三五 四五	四五
八百匁迄	四錢 八	二〇 三〇	四〇 五〇	五〇
一貫匁迄	四錢 八	二四 三六	四五 五五	五五
一貫二百匁迄	四錢 八	二八 四二	五〇 六〇	六〇
一貫四百匁迄	四錢 八	三二 四八	五五 六五	六五
一貫六百匁迄	四錢 八	三六 五四	六〇 七〇	七〇

萬國郵便料

種別			郵便聯合諸國	郵便聯合外諸國
郵便料	書狀	一通二十グラム迄	十錢	十錢
		以上二十グラム毎ニ	六錢	六錢
	葉書	通常	四錢	四錢
		往復	八錢	八錢
	印刷物	五十グラム毎ニ	二錢	二錢
	商品見本	五十グラム迄	四錢	四錢
		以上五十グラム毎ニ	二錢	二錢
	業務用書類	五十グラム迄	十錢	十錢
		以上五十グラム毎ニ	二錢	二錢
特殊取扱料金	書留		十錢	十錢
	到達證		五錢	五錢
	別配達		十二錢	・

清國本邦局所在地總ヲ內國ノ規定ニ據ル

內國電報料

區分	片假名十五字迄	以上五字迄毎ニ	備考
一市區町村内發受ノモノ	和文 一〇	三錢	特別電報料金ハ左ノ如シ(一)至急電報料金ノ二倍私報 三倍(二)照校電報料ハ通常電報料ノ四分一(三)受信電報料ハ電報受信報知料一通毎ニ和文十五字歐文五語ノ通常料金トシ郵便受信報知料ハ一通三錢トス(四)追尾電報料ハ追尾一回毎ニ新ニ電報ナ差出シタルモノトシテ其料金ヲ計算ス(五)再送電報料ハ新規發電ノ例ニ依ル(六)同文電報ハ十通以内トシ原信ヲ除キ一通毎ニ同文料和文ハ十錢歐文ハ十五錢ヲ課ス(七)時間外電報取扱料ハ一通二十錢(八)同文電報ヲ時間外電報トナストキハソノ原信ニ時間外取扱ノ符號ヲ併記シ時電外取扱料ハ原信ヲ除クノ外一通毎ニ金五錢トス(九)外國郵送電報料ハ郵送料一通二十錢トス(十)別便配達料ハ二里以内ハ二十錢二里ヲ超ユル時ハ一里以内毎ニ十五錢ヲ增シ島嶼ハ里程ニ拘ハラス二十錢トシ配達實費之ニ超ユルトキハ實費額ニ依ル(十一)ほしけ配達ハ一通二十錢トス
小笠原島臺灣樺太ト内地相互間	和文 三〇	五	
前二項以外ノモノ	和文 二〇	五	

◎通常郵便物ノ寸尺及ビ重量

●通常郵便物

區分	長	幅	厚	重量
書狀	制限ナシ	制限ナシ	制限ナシ	三十瓦（約九寸九分）
葉書	十四糎（約四寸六分）（但シ十糎（約三寸三分）ヲ下タルヲ得ズ）	九糎（約二寸九分）（但シ七糎（約二寸三分）ヲ下タルヲ得ズ）	制限ナシ	十瓦（約三寸三分）
印刷物及業務用書類	四十五糎（約一尺四寸八分）	四十五糎（約一尺四寸八分）	制限ナシ	二百瓦（約六十六匁六分）
商品見本	三十糎（約九寸九分）	二十糎（約六寸六分）	制限ナシ	三百五十瓦（約九十三匁三分）

●價格表記書狀及ビ箱物

區分	長	幅	厚	重量
書狀	制限ナシ	制限ナシ	制限ナシ	一瓩（約三貫三匁三分）
箱物	三十糎（約九寸九分）	十糎（約三寸三分）	十糎（約三寸三分）	十瓩（約三貫三匁三分）

（糎ハ「センチメートル」、瓩ハ「キログラム」、瓦ハ「グラム」）

◎小包郵便物ノ寸尺及ビ重量

種別	容積	重量	表記價格
内地	長厚幅各二尺	一貫六百匁	壹千圓
内地臺灣、樺太間	長厚幅各二尺	一貫六百匁	壹千圓
内地、朝鮮及日本清國間	長厚幅各二尺	一貫六百匁	壹千圓

但幅及厚各五寸以内ノモノハ長サ三尺ヲ限リ差出スコトヲ得

◎振替貯金

振替貯金加入者ニアラザルモノガ、加入者ニ送金セントスルトキハ、此ノ方法ニ依ルヲ以テ最モ便利トス

送金ノ場合ニハ郵便局ニアル拂込用紙カ或ハ又加入者私製ノ用紙カニ注文金額等ノ要項ヲ記入スヘシ

送金料ハ無料トス但シ送金ヲ受ケタル加入者ハ、口座手數料トシテ一口毎ニ二錢宛徴集セラル、カ故ニ、送金者ハ必ス二錢タケ餘分ニ拂ヒ込マザルヘカラズ

◎郵便貯金

●貯金ノ種類

▲一般ノ貯金
- 預入　現金預入、切手預入、證券預入、特別取扱（吏員出張、集配人取集）
- 拂渡　通常拂戻、即時拂戻、特別即時拂、局待拂、非常拂
- 證券賠入　保管、交付及賣却
- 特別貯金　規約貯金、据置貯金、共同貯金、海外貯金

▲振替貯金　此ノ貯金ハ主トシテ金錢取引上ノ便宜ヲ圖ルノ趣旨ニ出デタルモノニシテ一般貯金ト其ノ規定ヲ異ニスル點多シ、此ノ貯金ニ加入セントスル私人ハ最初二十圓ノ基本金ヲ預入スルヲ要ス

●貯金利子

▲利子
- 一般貯金　一箇年　五分四毛
- 振替貯金　一箇年　三分六厘

▲計算　利子ハ三月三十一日ヲ期トシテ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付ス○郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及十錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セズ又拂戻證書發行ノ月ヨリ（拂戻證書ヲ發行セザルモノハ拂戻金拂渡ノ月ヨリ）利子ヲ付セズ○貯金利子ノ計算上一圓位未滿ノ端數ヲ生ジタル時ハ之ヲ除棄ス○貯金預ケ人ハ利子ノ記入ヲ受クル爲メ毎年一回通帳ヲ郵便局ニ差出スヘシ

●貯金ニ關スル制限

▲貯金預入金額制限（制限ヲ超過シタルトキハ制限額マデニ引直スカ或ハ國債證券ヲ購入スルモノトス）拾錢以上千圓迄

切手貯金ノ預入ニアリテハ（郵便切手貯金臺紙ニ貼附スル切手ハ五厘、一錢、二錢ノ三種ニ限ル）一箇月ニ付一圓ヲ限トス

▲拂戻制限
- 通則　一部ノ拂戻ヲ爲ストキハ五十錢以上ノ貯金ヲ殘シ置クヲ要ス尚ホ單ニ十ヲ未滿及未タ現金ニ加ヘザル利子ハ拂出スヲ得ズ
- 即時拂戻ハ一日三十圓以内、一箇月總額百圓迄
  但シ特別即時拂ノモノハ此ノ制限ナシ
- 非常拂戻ニハ前記執レノ制限ヲモ付セサルコトアリ
- 規約貯金及拂置貯金ノ拂戻ニ際シテハ各自所定ノ制限ニ依ル

●貯金ノ時効及ビ期間

▲時効
- 預入ノモノ　十年間預入、拂出又ハ利子記入、通帳檢閲等ノ請求ヲナサズ且ツ其ノ催告ヲ受クルモ六十日内ニ之ニ應セサルトキハ其ノ郵便貯金及保管ノ證券ハ國庫ノ所有トナル
- 拂戻ノモノ　拂出證書ノ有効期間滿了ノ日ヨリ三箇年間再度證書ノ交付又ハ拂出金戻入ノ請求ヲナサヽルトキハ其ノ拂出金ハ國庫ノ所有トナル

▲期間　貯金拂戻證書ノ有効期間ハ發行ノ日ヨリ六十日間

◎電話料及電話呼出料

區域	一通話時ノ電話料	一回ノ呼出料
同一加入區域内及同一電話取扱局所呼出地域内並ニ同市町村内ノ通話	五錢	五錢
加入區域外通話（本號ノ里程ハ別ニ定ムル所ニ依ル）		
一里以内	五錢	五錢
三里以内	十錢	十錢
五里以内	十五錢	十錢
十里以内	二十錢	十五錢
二十五里以内	二十五錢	十五錢
百里以内	二十五里以上一里迄毎ニ二十五錢ニ一錢ヲ加ヘ五錢ヲ單位トシテ端數ヲ切上トス	貳拾錢
百里以上	百里以上一里迄毎ニ一圓ニ一錢ヲ加ヘ十錢ヲ單位トシテ四捨五入トス	貳拾五錢

艦船中ニ在ル者ヲ呼出サントスルトキハ前記電話呼出料ノ外一回毎ニ二十錢ノ増納ヲ要ス

◎鐵道規則概要

●稅率及ビ料金

●通行稅

等級	二百哩以上	二百哩又ハ二百哩未滿	百哩又ハ百哩未滿	五十哩又ハ五十哩未滿
一等	五拾錢	四拾錢	貳拾錢	五錢
二等	貳拾五錢	貳拾錢	拾錢	參錢
三等	四錢	參錢	貳錢	壹錢

●急行列車料金

一等　金壹圓五拾錢　二等　金壹圓　三等　金五拾錢

但シ四歲未滿ノ小兒ハ無料。四歲以上十二歲未滿ハ半額トス

●鐵道手荷物運賃

▲旅客手荷物ハ一等旅客一人ニ付キ百斤、二等旅客一人ニ付キ六十斤、三等旅客一人ニ付キ三十斤マデハ之ヲ携帶スルモ又ハ手荷物係ニ托スルモ凡テ無賃トス

▲半賃金ニテ運送スル小兒ノ無賃手荷物斤量ハ前項斤量ノ半トス○無賃制限ノ手荷物運賃ハ通常小荷物運賃ト同ジ

▲託送手荷物及ビ旅客携帶手荷物ハ一箇ニ付キ五錢ノ配達料ヲ支拂フ時ハ停車場所在地市内及ビ停車場ヨリ凡ソ一里半以内ノ地ニ限リ配達ノ取扱ヲナス

●貴重品運賃

▲第一種　白銅貨、生絲、絹絲、絹織物、絹組物、絹編物　通常小荷物運賃ニ同ジ

▲第二種　金銀貨、貴金屬地金、貴金屬細工物、寶玉石、寶玉細工物、高價ナル鍍金銀器、美術工藝品、骨董品、刺繡物、樂器、鏡、眼鏡、小間物等　通常小荷物運賃ノ二倍（但シ最低運賃金貳拾五錢）

▲第三種　紙幣、郵便切手、郵便端書、印紙、有價證券、其ノ他金錢及ビ物件ニ係ル證書類

重量一斤ニ付

五十哩未滿　金貳拾錢

五十哩以上百哩未滿　金參拾錢

百哩以上ハ百哩未滿ヲ增ス毎ニ　金拾錢

但シ最低運賃　金五拾錢

●無賃制限外小荷物運賃

哩程	一斤	二斤	三斤	四斤	五斤	六斤	七斤	八斤	九斤	十斤	十二斤迄	十四斤迄	十六斤迄	十八斤迄	二十斤迄
五十哩未滿	七錢	七錢	七錢	七錢	七錢	八錢	九錢	一〇錢	一一錢	一二錢	一三錢	一五錢	一七錢	一九錢	二一錢	二三錢
百哩未滿	七	七	七	七	七	七	七	九	一〇	一一	一二	一四	一五	一六	一八	二〇
百五十哩未滿	七	七	七	七	八	一〇	一二	一四	一六	一八	二〇	二二	二五	二七	三〇	三三
二百哩未滿	七	七	七	九	一二	一四	一六	一八	二一	二三	二五	二九	三三	三七	四二	四六
三百哩未滿	七	七	八	一二	一四	一七	二〇	二二	二五	二八	三一	三七	四二	四八	五四	六〇
四百哩未滿	七	九	一三	一六	二〇	二三	二六	三〇	三三	三七	四三	五〇	五七	六四	七一	七八
五百哩未滿	七	一〇	一四	一八	二二	二六	三〇	三四	三八	四二	四九	五七	六五	七三	八二	九一
七百哩未滿	七	一二	一六	二一	二五	三〇	三四	三九	四三	四八	五三	六三	七三	八三	九三	一〇三
七百哩以上	八	一三	一八	二三	二九	三三	三八	四三	四八	五三	六三	七三	八三	九三	一〇三	一一三

▲二十斤以上ハ五斤又ハ五斤未滿ヲ增ス毎ニ前記〇欄ノ通リ加算ス

◎乘車券規定

●定期乘車券

▲定期乘車券ハ各驛間各等發行ス通用期間ハ一ケ月、三ケ月、六ケ月、十二ケ月ノ四種トス
▲定期乘車券ハ普通旅客賃金ヨリ約四割乃至八割ヲ低減シテ發賣ス
▲定期乘車券ハ十二歲未滿ノ小兒ニ對シテハ半賃金ニテ發賣ス
▲定期乘車券ノ使用ハ記者當人ニ限ル

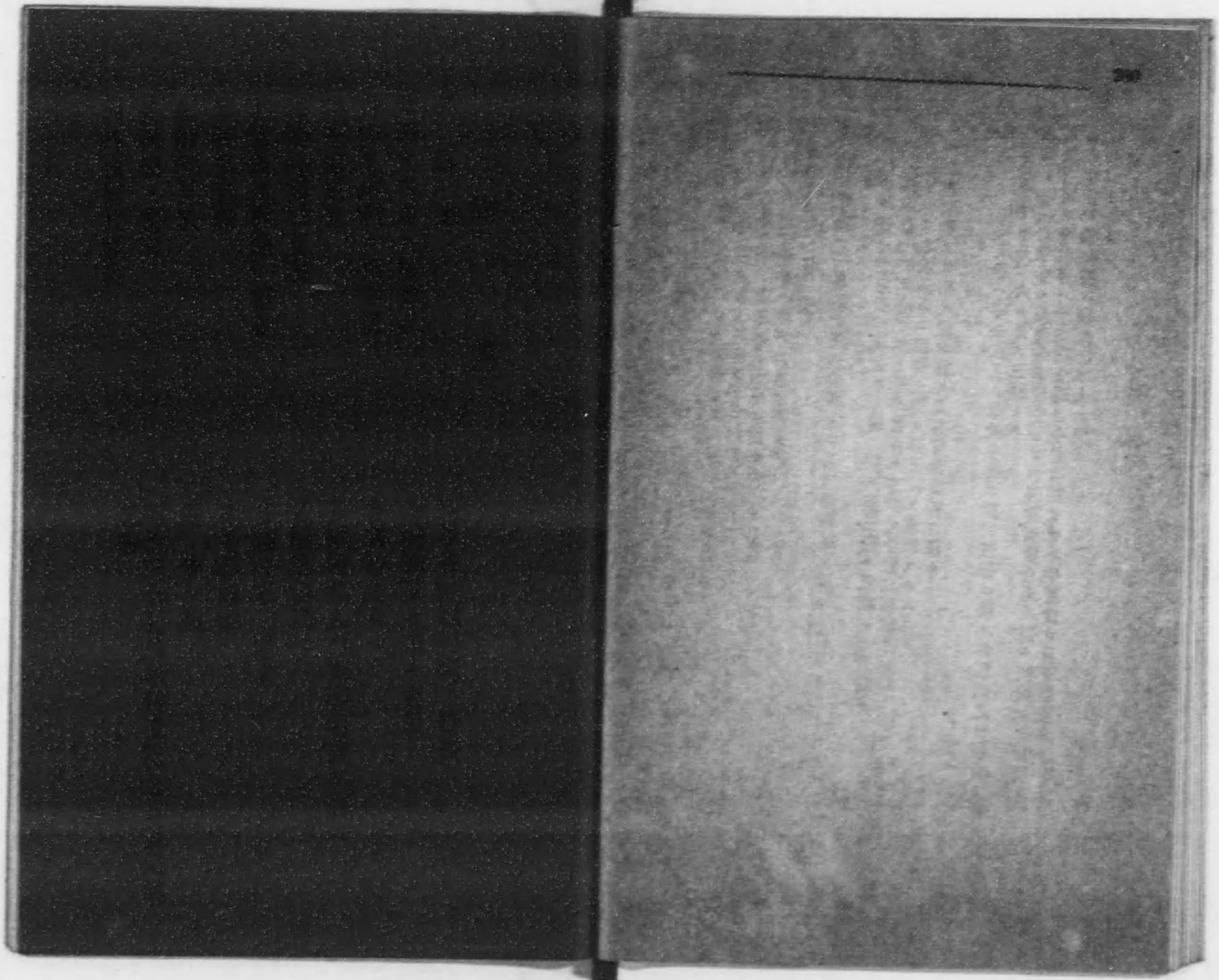
●回數乘車券

▲回數乘車券ハ一册二十五回乘用トシ其通用期間ハ發行ノ日ヨリ九十日間ニ限リテ指定區間ニ限リ發行ス
▲回數乘車券ハ普通旅客賃金ヨリ約二割乃至三割ヲ低減シテ發賣ス
▲回數乘車券ハ持ニ小兒用トシテ發行セズ但シ小兒二名以上同時ニ使用セントスル時ハ二名若クハ二名未滿每ニ該券一葉ノ割ヲ以テ乘車セシム
▲回數乘車券ノ使用ハ記名當人及其家族僕婢ニ限ル

●學生定期乘車券

▲學生　定期乘車券ハ官公私立ノ學校生徒ニ對シ三等ニ限リ各驛間之ヲ發行ス通用期間ハ一ケ月、三ケ月、六ケ月ノ三種トス
▲學生定期乘車券ハ普通乘客賃金ヨリ約四割五分乃至八割ヲ低減シテ發賣ス
▲學生定期乘車券ハ十二歲未滿ノ小兒ニ對シテハ半賃金ヲ以テ發賣ス
▲學生定期乘車券ノ使用ハ本人ニ限ル

露光量違いの為重複撮影



露光量違いの為重複撮影

附錄

利息法
年利ヲ日歩ニ換算表
日歩ヲ年利ニ換算表
利子早見表
穀物換算早見表
公債株式利廻一覽表
年暦早見表
年齢早見表
舊鐵錢ノ定額
內外貨幣比較表
陸軍各師團配備一覽表
帝國海軍々艦一覽表
各國貯金調べ
各國面積人口軍事費歲出調べ
各國公債調べ
各國陸軍一覽表
日用心得草
度量衡
明治三十七八年戰役紀念日設定趣意書

附錄

◎利息

一、契約上ノ利息　人民相互ノ合意ヲ以テ定ムル所ノ利息ナリ

一、法律上ノ利息　法律ノ規則ヨリ生スル所ノ利息ナリ

制限（内地ノモノニシテ朝鮮、臺灣ハ尚若干差アリ）

イ、契約上ノ利息　元金百圓以下　一ケ年ニ付百分ノ二十（二割）以下

元金百圓以上千圓以下　仝百分ノ十五（一割五分）以下

元金千圓以上　仝百分ノ十二（一割二分）以下

ロ、制限超過ノ制裁

右ノ制限ヲ超ユルモノハ制裁上無効ノモノトシ各制限迄引直サシムル

違約ノ場合ヲ見越シテ償金ヲ約スルトモ實際ノ損害ニ比シテ不當ナル時ハ裁判官ハ其ノ見込ニヨリテ相當ノ減少ヲナス

◎年利ヲ日歩ニ換算ノ表

（此表ハ年利ノ何割何分トイフコトヲ日歩ニ引直シタルモノナリ）

年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩
一分	一六六	一割一分	三〇五	一割六分	四四四	二割一分	五八四
一分五厘	二七七	一割一分五厘	三一九	一割六分五厘	四五八	二割一分五厘	六〇八
二分	三三二	一割二分	三三三	一割七分	四七五	二割二分	六一二
二分五厘	四一六	一割二分五厘	三四七	一割七分五厘	四八六	二割二分五厘	六一六
三分	四九九	一割三分	三六一	一割八分	五〇〇	二割三分	六三九
三分五厘	五八二	一割三分五厘	三七五	一割八分五厘	五一三	二割三分五厘	六四三
四分	六六六	一割四分	三八八	一割九分	五二七	二割四分	六六六
四分五厘	七四九	一割四分五厘	四〇二	一割九分五厘	五四一	二割四分五厘	六七〇
五分	八三三	一割五分	四一六	二割	五五五	二割五分	六九四
五分五厘	九一六	一割五分五厘	四三〇	二割五分	五六九	二割六分	七二八

◎日歩ヲ年利ニ換算ノ表

（此ノ表ハ日歩ヲ年利何割何分トイフニ引直シタルモノナリ）

日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利	日歩	年利
三厘	一分一〇	一銭五厘	五四八	二銭七厘	九八六	三銭九厘	一四二四
四厘	一四六	一銭六厘	五八四	二銭八厘	一〇二二	四銭	一四六〇
五厘	一八三	一銭七厘	六二一	二銭九厘	一〇五九	四銭一厘	一四九七
六厘	二一九	一銭八厘	六五七	三銭	一〇九五	四銭二厘	一五三三
七厘	二五六	一銭九厘	六九四	三銭一厘	一一三二	四銭三厘	一五七〇
八厘	二九二	二銭	七三〇	三銭二厘	一一六八	四銭四厘	一六〇六
九厘	三二九	二銭一厘	七六七	三銭三厘	一二〇五	四銭五厘	一六四三
一銭	三六五	二銭二厘	八〇三	三銭四厘	一二四一	四銭六厘	一六七九
一銭一厘	四〇二	二銭三厘	八四〇	三銭五厘	一二七八	四銭七厘	一七一六
一銭二厘	四三八	二銭四厘	八七六	三銭六厘	一三一四	四銭八厘	一七五二
一銭三厘	四七五	二銭五厘	九一三	三銭七厘	一三五一	四銭九厘	一七八九
一銭四厘	五一一	二銭六厘	九四九	三銭八厘	一三八七	五銭	一八二五

◎利子早見表

年二割ノ利息即百分ノ二十（十五兩一分）

元金	利息 一ヶ年	利息 一ヶ月
円	円十錢	円十錢厘
一	二〇	一六
三	六〇	五〇
四	八〇	六六
五	一、〇〇	八三
一〇	二、〇〇	一六六
一五	三、〇〇	二五〇
二〇	四、〇〇	三三三
二五	五、〇〇	四一六
三〇	六、〇〇	五〇〇
四〇	八、〇〇	六六六
五〇	一〇、〇〇	八三三
六〇	一二、〇〇	一、〇〇〇
七〇	一四、〇〇	一、一六六
八〇	一六、〇〇	一、三三三
九〇	一八、〇〇	一、五〇〇

年一割五分ノ利息即百分ノ十五（二十割一分）

元金	利息 一ヶ年	利息 一ヶ月
円	円十錢	円十錢
一〇〇	一五、〇〇	一、二五〇
一五〇	二二、五〇	一、八七五
二〇〇	三〇、〇〇	二、五〇〇
二五〇	三七、五〇	三、一二五
三〇〇	四五、〇〇	三、七五〇
三五〇	五三、五〇	四、三七五
四〇〇	六〇、〇〇	五、〇〇〇
四五〇	六七、五〇	五、六二五
五〇〇	七五、〇〇	六、二五〇
五五〇	八二、五〇	六、八七五
六〇〇	九〇、〇〇	七、五〇〇
七〇〇	一〇五、〇〇	八、七五〇
八〇〇	一二〇、〇〇	一〇、〇〇〇
九〇〇	一三五、〇〇	一一、二五〇
九五〇	一四二、五〇	一一、八七五

年一割二分ノ利息即百分ノ十二（二十五割一分）

元金	利息 一ヶ年	利息 一ヶ月
円	円	円
一〇〇〇	一二〇	一〇
一一〇〇	一三二	一一
一三〇〇	一五六	一三
一五〇〇	一八〇	一五
二〇〇〇	二四〇	二〇
二五〇〇	三〇〇	二五
三〇〇〇	三六〇	三〇
四〇〇〇	四八〇	四〇
五〇〇〇	六〇〇	五〇
六〇〇〇	七二〇	六〇
七〇〇〇	八四〇	七〇
八〇〇〇	九六〇	八〇
九〇〇〇	一〇八〇	九〇
九八〇〇	一一八八	九九
一〇〇〇〇	一二〇〇	一〇〇

◎穀物換算早見表

一圓ニ付	一俵（四斗）ニ付	一石ニ付
升合	円十錢厘毛	円十錢厘毛
四〇	一〇、〇〇〇〇	二五、〇〇〇〇
四一	九、七五六一	二四、三九〇二
四二	九、五二三八	二三、八〇九五
四三	九、三〇二三	二三、二五五八
四四	九、〇九〇九	二二、七二七二
四五	八、八八八八	二二、二二二二
四六	八、六九五六	二一、七三九三
四七	八、五一〇六	二一、二七六五
四八	八、三三三三	二〇、八三三三
四九	八、一六三二	二〇、四〇八一
五〇	八、〇〇〇〇	二〇、〇〇〇〇

一圓ニ付	一俵（四斗）ニ付	一石ニ付
升合	円十錢厘毛	円十錢厘毛
五一	七、八四三一	一九、六〇八〇
五二	七、六九二三	一九、二三〇八
五三	七、五四七二	一八、八六八〇
五四	七、四〇七四	一八、五一八五
五五	七、二七二七	一八、一八一八
五六	七、一四二八	一七、八五七一
五七	七、〇一七五	一七、五四三八
五八	六、八九六五	一七、二四一三
五九	六、七七九六	一六、九四九一
六〇	六、六六六六	一六、六六六六

◎公債株式利廻一覽表

金額	四分	五分	六分	七分	八分	九分	一割
五〇	〇・八〇	一・〇〇	一・二〇	一・四〇	一・六〇	一・八〇	二・〇〇
五一	〇・七八四	〇・九八〇	一・一七六	一・三七三	一・五六九	一・七六五	一・九六一
五二	〇・七六九	〇・九六二	一・一五四	一・三四六	一・五三八	一・七三一	一・九二三
五三	〇・七五五	〇・九四三	一・一三三	一・三一一	一・五〇九	一・六九八	一・八八七
五四	〇・七四一	〇・九二六	一・一一一	一・二九六	一・四八一	一・六六七	一・八五二
五五	〇・七二七	〇・九〇九	一・〇九一	一・二七三	一・四五五	一・六三六	一・八一八
五六	〇・七一四	〇・八九三	一・〇七一	一・二五〇	一・四二九	一・六〇七	一・七八六
五七	〇・七〇二	〇・八七七	一・〇五二	一・二二八	一・四〇三	一・五七八	一・七五四
五八	〇・六九〇	〇・八六二	一・〇三四	一・二〇七	一・三八〇	一・五五二	一・七二五
五九	〇・六七七	〇・八四七	一・〇一七	一・一八七	一・三五六	一・五二六	一・六九五
六〇	〇・六六六	〇・八三三	一・〇〇〇	一・一六六	一・三三三	一・五〇〇	一・六六七
六一	〇・六五五	〇・八一八	〇・九八二	一・一四五	一・三〇九	一・四七四	一・六三九
六二	〇・六四四	〇・八〇五	〇・九六六	一・一二七	一・二八八	一・四四九	一・六一〇
六三	〇・六三三	〇・七九一	〇・九五〇	一・一〇九	一・二六七	一・四二五	一・五八四
六四	〇・六二二	〇・七七八	〇・九三四	一・〇九一	一・二四五	一・四〇〇	一・五五六

六五	〇・六一一	〇・七六九	〇・九二三	一・〇七七	一・二三一	一・三八五	一・五三八
六六	〇・六〇六	〇・七五八	〇・九〇九	一・〇六一	一・二一二	一・三六四	一・五一五
六七	〇・五九七	〇・七四六	〇・八九六	一・〇四五	一・一九四	一・三四三	一・四九三
六八	〇・五八八	〇・七三五	〇・八八二	一・〇二九	一・一七六	一・三二四	一・四七一
六九	〇・五八〇	〇・七二五	〇・八七〇	一・〇一四	一・一六〇	一・三〇四	一・四五九
七〇	〇・五七一	〇・七一四	〇・八五七	一・〇〇〇	一・一四三	一・二八六	一・四二九
七一	〇・五六三	〇・七〇四	〇・八四五	〇・九八六	一・一二七	一・二六八	一・四〇八
七二	〇・五五六	〇・六九四	〇・八三三	〇・九七二	一・一一一	一・二五〇	一・三八九
七三	〇・五四八	〇・六八五	〇・八二二	〇・九五九	一・〇九六	一・二三三	一・三七〇
七四	〇・五四一	〇・六七六	〇・八一一	〇・九四六	一・〇八一	一・二一六	一・三五一
七五	〇・五三三	〇・六六七	〇・八〇〇	〇・九三三	一・〇六七	一・二〇〇	一・三三三
七六	〇・五二六	〇・六五八	〇・七八九	〇・九二一	一・〇五三	一・一八四	一・三一六
七七	〇・五一九	〇・六四九	〇・七七九	〇・九〇九	一・〇三九	一・一六九	一・二九九
七八	〇・五一三	〇・六四一	〇・七六九	〇・八九七	一・〇二六	一・一五四	一・二八二
七九	〇・五〇六	〇・六三三	〇・七五九	〇・八八六	一・〇一三	一・一三九	一・二六六
八〇	〇・五〇〇	〇・六二五	〇・七五〇	〇・八七五	一・〇〇〇	一・一二五	一・二五〇
八一	〇・四九四	〇・六一七	〇・七四一	〇・八六四	〇・九八八	一・一一一	一・二三五
八二	〇・四八八	〇・六一〇	〇・七三二	〇・八五四	〇・九七六	一・〇九八	一・二二〇
八三	〇・四八二	〇・六〇二	〇・七二三	〇・八四三	〇・九六四	一・〇八四	一・二〇五

	四分	五分	六分	七分	八分	九分	一割
八四	〇、四七六	〇、五九五	〇、七一四	〇、八三三	〇、九五二	一、〇七一	一、一九〇
八五	〇、四七一	〇、五八八	〇、七〇六	〇、八二四	〇、九四一	一、〇五九	一、一七六
八六	〇、四六五	〇、五八一	〇、六九八	〇、八一四	〇、九三〇	一、〇四六	一、一六三
八七	〇、四六〇	〇、五七五	〇、六九〇	〇、八〇五	〇、九二〇	一、〇三四	一、一四九
八八	〇、四五五	〇、五六八	〇、六八二	〇、七九五	〇、九〇九	一、〇二三	一、一三六
八九	〇、四四九	〇、五六二	〇、六七四	〇、七八六	〇、八九九	一、〇一一	一、一二四
九〇	〇、四四四	〇、五五六	〇、六六七	〇、七七八	〇、八八九	一、〇〇〇	一、一一一
九一	〇、四四〇	〇、五四九	〇、六五九	〇、七六九	〇、八七九	〇、九八九	一、〇九九
九二	〇、四三五	〇、五四三	〇、六五二	〇、七六一	〇、八七〇	〇、九七八	一、〇八七
九三	〇、四三〇	〇、五三八	〇、六四五	〇、七五三	〇、八六〇	〇、九六八	一、〇七五
九四	〇、四二六	〇、五三二	〇、六三八	〇、七四五	〇、八五一	〇、九五七	一、〇六四
九五	〇、四二一	〇、五二六	〇、六三二	〇、七三七	〇、八四二	〇、九四七	一、〇五三
九六	〇、四一七	〇、五二一	〇、六二五	〇、七二九	〇、八三三	〇、九三八	一、〇四二
九七	〇、四一二	〇、五一五	〇、六一九	〇、七二二	〇、八二五	〇、九二八	一、〇三一
九八	〇、四〇八	〇、五一〇	〇、六一二	〇、七一四	〇、八一六	〇、九一八	一、〇二〇
九九	〇、四〇四	〇、五〇五	〇、六〇六	〇、七〇七	〇、八〇八	〇、九〇九	一、〇一〇
一〇〇	〇、四〇〇	〇、五〇〇	〇、六〇〇	〇、七〇〇	〇、八〇〇	〇、九〇〇	一、〇〇〇

本表ハ公債證書額面百圓何銭利附ヲ何圓ニ買收セハ何分ノ利廻トナルヤヲ速ニ見出サン爲ニシタルモノナリ例ヘハ四分利公債證書額面百圓ヲ八十六圓ニ買タルトキハ八十六ノ縦行ト四分ノ横行ト照合セタル四分六厘五毛ヲ以テ其利廻トナルヲ知ルベシ

◎年曆早見表

（大化五 一二六八）トハ大化ハ五年ニシテ大化元年ハ大正元年ヨリ一千二百六十八年前ナルコトヲ示シタルモノナリ

年號	始
大化	五（一二六八）
白雉	五（一二六三）
齊明	七（一二五八）
天智	一〇（一二五一）
白鳳	一四（一二四一）
朱鳥	一（一二二七）
持統	一〇（一二二六）
文武	四（一二一六）
大寶	三（一二一二）
慶雲	四（一二〇九）
和銅	七（一二〇五）
靈龜	二（一一九八）
養老	七（一一九六）
神龜	五（一一八九）
天平	二〇（一一八四）
天平勝寶	八（一一六四）
天平寶字	八（一一五六）
天平神護	二（一一四八）
神護景雲	三（一一四六）
寶龜	一一（一一四三）
天應	一（一一三二）
延曆	二四（一一三一）
大同	四（一一〇七）
弘仁	一四（一一〇三）
天長	一〇（一〇八九）
承和	一四（一〇七九）
嘉祥	三（一〇六五）
仁壽	三（一〇六二）
齊衡	三（一〇五九）
天安	二（一〇五六）
貞觀	一八（一〇五四）
元慶	八（一〇三六）
仁和	四（一〇二八）
寛平	九（一〇二四）
昌泰	三（一〇一五）
延喜	二二（一〇一二）
延長	八（九九〇）
承平	七（九八二）
天慶	九（九七五）
天曆	一〇（九六六）
天德	四（九五六）
應和	三（九五二）
康保	四（九四九）
安和	二（九四五）
天祿	三（九四三）
天延	三（九四〇）
貞元	二（九三七）
天元	五（九三五）
永觀	二（九三〇）
寛和	二（九二八）
永延	二（九二六）
永祚	一（九二四）
正曆	五（九二三）
長德	四（九一八）
長保	五（九一四）
寛弘	八（九〇九）
長和	五（九〇一）
寛仁	四（八九六）
治安	三（八九二）
萬壽	四（八八九）
長弘	九（八八五）
長曆	三（八七六）
長久	四（八七三）
寛德	二（八六九）
永承	七（八六七）
天喜	五（八六〇）
康平	七（八五五）
治曆	四（八四八）
延久	五（八四四）
承保	三（八三九）
承曆	四（八三六）

永保	三	(八三二)
應德	三	(八二九)
寛治	七	(八二六)
嘉保	二	(八一九)
永長	一	(八一七)
承德	二	(八一六)
康和	五	(八一四)
長治	二	(八〇九)
嘉承	二	(八〇七)
天仁	二	(八〇五)
天永	三	(八〇三)
永久	五	(八〇〇)
元永	二	(七九五)
保安	四	(七九三)
天治	二	(七八九)
大治	五	(七八七)
天承	一	(七八二)
長承	三	(七八一)
保延	六	(七七八)
永治	一	(七七二)
康治	二	(七七一)
天養	一	(七六九)
久安	六	(七六八)
仁平	三	(七六二)
久壽	二	(七五九)
保元	三	(七五七)
平治	一	(七五四)
永暦	一	(七五三)
應保	二	(七五二)
長寛	二	(七五〇)
永萬	一	(七四八)
仁安	三	(七四七)
嘉應	二	(七四四)
承安	四	(七四二)
安元	二	(七三八)
治承	四	(七三六)
養和	一	(七三二)
壽永	二	(七三一)
元暦	一	(七二九)
文治	五	(七二八)
建久	九	(七二三)
正治	二	(七一四)
建仁	三	(七一二)
元久	二	(七〇九)
建永	一	(七〇七)
承元	四	(七〇六)
建暦	二	(七〇二)
建保	六	(七〇〇)
承久	三	(六九四)
貞應	二	(六九一)
元仁	一	(六八九)
嘉祿	二	(六八八)
安貞	二	(六八六)
寛喜	三	(六八四)
貞永	一	(六八一)
天福	一	(六八〇)
文暦	一	(六七九)
嘉禎	三	(六七八)
暦仁	一	(六七五)
延應	一	(六七四)
仁治	三	(六七三)
寛元	四	(六七〇)
寶治	二	(六六六)
建長	七	(六六四)
康元	一	(六五七)
正嘉	二	(六五六)
正元	一	(六五四)
文應	一	(六五三)
弘長	三	(六五二)
文永	一一	(六四九)
建治	三	(六三八)
弘安	一〇	(六三五)
正應	五	(六二五)
永仁	六	(六二〇)
正安	三	(六一四)
乾元	一	(六一一)
嘉元	三	(六一〇)
德治	二	(六〇七)
延慶	三	(六〇五)
應長	一	(六〇二)
正和	五	(六〇一)
文保	二	(五九六)
元應	二	(五九四)
元亨	三	(五九二)
正中	二	(五八九)
嘉暦	三	(五八七)
元德	二	(五八四)
元弘	三	(五八二)

建武	二	(五七九)
延元	四	(五七七)
興國	六	(五七三)
正平	二四	(五六七)
建德	二	(五四三)
文中	三	(五四一)
天授	六	(五三八)
弘和	三	(五三二)
元中	九	(五二九)
明德	一	(五二〇)
應永	三四	(五一九)
正長	一	(四八五)
永享	一二	(四八四)
嘉吉	三	(四七二)
文安	五	(四六九)
寶德	三	(四六四)
享德	三	(四六一)
康正	二	(四五八)
長祿	三	(四五六)
寛正	六	(四五三)
文正	一	(四四七)
應仁	二	(四四六)
文明	一八	(四四四)
長享	二	(四二六)
延德	三	(四二四)
明應	九	(四二一)
文龜	三	(四一二)
永正	一七	(四〇九)
大永	七	(三九二)
享祿	四	(三八五)
天文	二三	(三八一)
弘治	三	(三五八)
永祿	一二	(三五五)
元龜	三	(三四三)
天正	一九	(三四〇)
文祿	四	(三二一)
慶長	一九	(三一七)
元和	九	(二九八)
寛永	二〇	(二八九)
正保	四	(二六九)
慶安	四	(二六五)
承應	三	(二六一)
明暦	三	(二五八)
萬治	三	(二五五)
寛文	一二	(二五二)
延寶	八	(二四〇)
天和	三	(二三二)
貞享	四	(二二九)
元祿	一六	(二二五)
寶永	七	(二〇九)
正德	五	(二〇二)
享保	二〇	(一九七)
元文	五	(一七七)
寛保	三	(一七二)
延享	四	(一六九)
寛延	三	(一六五)
寶暦	一三	(一六二)
明和	八	(一四九)
安永	九	(一四一)
天明	八	(一三三)
寛政	一二	(一二四)
享和	三	(一一二)
文化	一四	(一〇九)
文政	一一	(九五)
天保	一四	(八四)
弘化	四	(七〇)
嘉永	六	(六六)
安政	六	(六〇)
萬延	二	(五四)
文久	三	(五二)
元治	一	(四九)
慶應	三	(四八)
明治	四四	(四五)
大正元年		

備考　神武天皇御即位辛酉年ヨリ孝德天皇大化元年乙巳年迄千三百四年間年號ナシ

◎年齢早見表

（例ヘバ明治十七年生レノ人ハ、古月ニ十七トアル所ヲ捜セバ數ヘ年二十九歳ニテ申年トイフコトガカリマス）

文化十酉 一〇〇	十一 九九 戌	十二 九八 亥	十三 九七 子	十四 九六 丑	文政一寅 九五	二 九四 卯	三 九三 辰	四 九二 巳	五 九一 午
六 九〇 未	七 八九 申	八 八八 酉	九 八七 戌	十 八六 亥	十一 八五 子	十二 八四 丑	天保一寅 八三	二 八二 卯	三 八一 辰
四 八〇 巳	五 七九 午	六 七八 未	七 七七 申	八 七六 酉	九 七五 戌	十 七四 亥	十一 七三 子	十二 七二 丑	十三 七一 寅
十四 七〇 卯	弘化一辰 六九	二 六八 巳	三 六七 午	四 六六 未	嘉永一申 六五	二 六四 酉	三 六三 戌	四 六二 亥	五 六一 子
六 六〇 丑	安政一寅 五九	二 五八 卯	三 五七 辰	四 五六 巳	五 五五 午	六 五四 未	萬延一申 五三	文久一酉 五二	二 五一 戌
三 五〇 亥	元治一子 四九	慶應一丑 四八	二 四七 寅	三 四六 卯	明治一辰 四五	二 四四 巳	三 四三 午	四 四二 未	五 四一 申
六 四〇 酉	七 三九 戌	八 三八 亥	九 三七 子	十 三六 丑	十一 三五 寅	十二 三四 卯	十三 三三 辰	十四 三二 巳	十五 三一 午
十六 三〇 未	十七 二九 申	十八 二八 酉	十九 二七 戌	二十 二六 亥	二十一 二五 子	二十二 二四	二十三 二三 寅	二十四 二二 卯	二十五 二一 辰
二十六 二〇 巳	二十七 一九 午	二十八 一八 未	二十九 一七 申	三十 一六 酉	三十一 一五 戌	三十二 一四 亥	三十三 一三 子	三十四 一二 丑	三十五 一一 寅
三十六 一〇 卯	三十七 九 辰	三十八 八 巳	三十九 七 午	四十 六 未	四十 五 申	四十二 四 酉	四十三 三 戌	四十四 二 亥	大正元 一 子

◎舊鐵錢價格表

六四文錢（元文四錢）四千枚ヲ以テ新貨五十錢

六一文錢（元一文錢）八千枚ヲ以テ新貨五十錢

◎舊金貨價格表（詳細ハ明治十八年七月大藏省告示第一〇三號）

慶長	小判	十圓十三錢二厘
元祿	小判	六圓九十一錢
享保	小判	十圓十八錢四厘
文久	小判	五圓七十九錢七厘
文政	小判	五圓〇六錢一厘
一分	銀	三十一錢五厘
一未	銀	一圓七錢五厘

◎內外貨幣比較表

英國
- 一バウンド（二十志）九圓七十六錢二厘
- 一シルリング（十二斤）四十八錢八厘一毛
- 一ペンス（片）四錢〇七毛

佛國
- 一フラン（百參）三十八錢七厘
- 一サンチーム（參）三錢八厘

米國
- 一ドル（百仙）一圓〇〇六厘
- 一セント（仙）二錢

獨國
- 一マルク（百布）四十七錢八厘
- 一フエンニヒ（布）四錢七厘八毛

伊國
- 一リテ（百參）三十八錢七厘
- 一サンチーム（參）三錢八厘七毛

露國
- 一ルーブル（百哥）一圓〇二錢八厘
- 一コツヘク（哥）一錢二厘

清國 一兩
- 上海 一圓三十九錢三厘七毛
- 天津 一圓四十七錢六厘
- 北京 一圓四十四錢九厘三毛
- 牛莊 一圓四十四錢九厘三毛

◎大日本帝國陸軍各師團配備表（明治四十年改正發表）

近衛師團（東京）

- 步兵第一旅團（東京）
  - 步兵第一聯隊（東京）
  - 近衛步兵第二聯隊（同）
  - 近衛步兵第三聯隊（同）
- 步兵第二旅團（同）
  - 步兵第四聯隊（同）
  - 近衛步兵第四聯隊（同）
- 騎兵第一旅團（同）
  - 近衛騎兵聯隊（同）
- 野砲兵第一旅團（同）
  - 近衛野砲兵聯隊（同）
  - 野砲兵第十四聯隊（同）
- 交通兵旅團（千葉）
  - 近衛工兵大隊（同）
  - 鐵道聯隊本部（千葉）
  - 鐵道第二大隊（同）（中野）
  - 電信隊（同）

第一師團（東京）

- 步兵第一旅團（東京）
  - 步兵第一聯隊（東京）
  - 步兵第三聯隊（同）
- 步兵第二旅團（同）
  - 步兵第二聯隊（同）
  - 步兵第十五聯隊（習志野）
- 騎兵第二旅團（習志野）
  - 騎兵第一聯隊（同）
  - 騎兵第十六聯隊（東京）
- 野砲兵第二旅團（國府臺）
  - 野砲兵第一聯隊（東京）
  - 野砲兵第十六聯隊（國府臺）

第二師團（仙臺）

- 步兵第三旅團（仙臺）
  - 步兵第四聯隊（同）
  - 步兵第二十九聯隊（仙臺）
- 步兵第廿五旅團（山形）
  - 步兵第二聯隊（同）
  - 步兵第三十二聯隊（山形）
- 騎兵第二聯隊（同）
- 山砲兵第一大隊（同）
- 輜重兵第二大隊（同）
- 工兵第二大隊（同）

第三師團（名古屋）

- 步兵第五旅團（名古屋）
  - 步兵第六聯隊（名古屋）
  - 步兵第三十三聯隊（同）
- 步兵第三十旅團（津）
  - 步兵第三聯隊（津）
  - 步兵第六十八聯隊（岐阜）
- 騎兵第三聯隊（同）
- 工兵第三大隊（同）
- 野砲兵第十七聯隊（下志津）
- 工兵第一大隊（東京）
- 重砲兵第一聯隊（橫須賀）
- 輜重兵第一大隊（東京）
- 重砲兵第二聯隊（橫須賀）

第四師團（大阪）

- 步兵第七旅團（大阪）
  - 步兵第八聯隊（大阪）
  - 步兵第三十二聯隊（和歌山）
- 步兵第三十七聯隊（同）
- 騎兵第四聯隊（同）
- 工兵第四大隊（高槻）
- 重砲兵聯隊本部（深山）
- 重砲兵第二大隊（同）

第五師團（廣島）

- 步兵第九旅團（廣島）
  - 步兵第十一聯隊（廣島）
  - 步兵第四十二聯隊（廣島）
- 步兵第廿一旅團（丸龜）
  - 步兵第十二聯隊（丸龜）
  - 步兵第十一聯隊（丸龜）
- 騎兵第五聯隊（廣島）
- 工兵第五大隊（廣島）
- 野砲兵第十四聯隊（廣島）
- 輜重兵第五大隊（廣島）
- 重砲兵第三聯隊（廣島）

第六師團（熊本）

- 步兵第十一旅團（熊本）
  - 步兵第十三聯隊（熊本）
  - 步兵第四十六聯隊（熊本）
- 步兵第十二旅團（小倉）
  - 步兵第十四聯隊（小倉）
  - 步兵第二十四聯隊（小倉）
- 騎兵第六聯隊（熊本）
- 工兵第六大隊（熊本）
- 野砲兵第十三聯隊（熊本）
- 輜重兵第六大隊（熊本）
- 重砲兵第四聯隊（小倉）

第七師團（札幌）

- 步兵第十三旅團（旭川）
  - 步兵第二十五聯隊（旭川）
  - 步兵第二十七聯隊（旭川）
- 步兵第廿六旅團（札幌）
  - 步兵第二十八聯隊（札幌）
  - 步兵第二十六聯隊（札幌）
- 騎兵第七聯隊（札幌）
- 工兵第七大隊（札幌）
- 野砲兵第二十七聯隊（旭川）
- 輜重兵第七大隊（札幌）
- 重砲兵第五聯隊（札幌）

第八師團（仙臺）

- 步兵第十五旅團（弘前）
  - 步兵第三十一聯隊（弘前）
  - 步兵第五十二聯隊（弘前）
- 步兵第十六旅團（青森）
  - 步兵第五聯隊（青森）
  - 步兵第三十一聯隊（青森）
- 騎兵第八聯隊（弘前）
- 工兵第八大隊（弘前）
- 野砲兵第八聯隊（弘前）
- 輜重兵第八大隊（弘前）
- 重砲兵第六聯隊（弘前）

第九師團（金澤）

- 步兵第十九旅團（金澤）
  - 步兵第七聯隊（金澤）
  - 步兵第三十五聯隊（金澤）
- 步兵第二十旅團（富山）
  - 步兵第三聯隊（富山）
  - 步兵第三十四聯隊（富山）
- 騎兵第九聯隊（金澤）
- 工兵第九大隊（金澤）
- 野砲兵第九聯隊（金澤）
- 輜重兵第九大隊（金澤）
- 重砲兵第七聯隊（金澤）

第十師團（姬路）

- 步兵第十九旅團（姬路）
  - 步兵第十九聯隊（姬路）
  - 步兵第六十聯隊（姬路）
- 步兵第三十九旅團（龜山）
  - 步兵第三十九聯隊（龜山）
  - 步兵第六十一聯隊（龜山）
- 騎兵第十聯隊（姬路）
- 工兵第十大隊（姬路）
- 野砲兵第十聯隊（姬路）
- 輜重兵第十大隊（姬路）
- 重砲兵第八聯隊（姬路）

第十一師團（善通寺）

- 步兵第廿二旅團（丸龜）
  - 步兵第十二聯隊（丸龜）
  - 步兵第四十三聯隊（丸龜）
- 步兵第廿三旅團（松山）
  - 步兵第二十一聯隊（松山）
  - 步兵第二十二聯隊（松山）
- 騎兵第十一聯隊（善通寺）
- 工兵第十一大隊（善通寺）
- 野砲兵第十一聯隊（善通寺）
- 輜重兵第十一大隊（善通寺）
- 重砲兵第九聯隊（善通寺）

第十二師團（小倉）

- 步兵第廿四旅團（小倉）
  - 步兵第十四聯隊（小倉）
  - 步兵第四十七聯隊（小倉）
- 步兵第廿五旅團（久留米）
  - 步兵第二十四聯隊（久留米）
  - 步兵第四十六聯隊（久留米）
- 騎兵第十二聯隊（小倉）
- 工兵第十二大隊（小倉）
- 野砲兵第十二聯隊（小倉）
- 輜重兵第十二大隊（小倉）
- 重砲兵第十一聯隊（小倉）

第十三師團（鎭臺）

- 步兵第廿六旅團（鎭臺）
  - 步兵第十五聯隊（鎭臺）
  - 步兵第十九聯隊（鎭臺）
- 步兵第廿七旅團（鎭臺）
  - 步兵第十六聯隊（鎭臺）
  - 步兵第十七聯隊（鎭臺）
- 騎兵第十三聯隊（鎭臺）
- 工兵第十三大隊（鎭臺）
- 野砲兵第十三聯隊（鎭臺）
- 輜重兵第十三大隊（鎭臺）
- 重砲兵第三聯隊（鎭臺）

第十四師團（宇都宮）

- 步兵第廿七旅團（宇都宮）
  - 步兵第五十九聯隊（宇都宮）
  - 步兵第六十六聯隊（宇都宮）
- 步兵第廿八旅團（水戶）
  - 步兵第二聯隊（水戶）
  - 步兵第二十聯隊（水戶）
- 騎兵第十四聯隊（宇都宮）
- 工兵第十四大隊（宇都宮）
- 野砲兵第十四聯隊（宇都宮）
- 輜重兵第十四大隊（宇都宮）
- 重砲兵第四聯隊（宇都宮）

第十五師團（久留米）

- 步兵第廿九旅團（久留米）
  - 步兵第五十六聯隊（久留米）
  - 步兵第六十三聯隊（久留米）
- 步兵第三十旅團（佐賀）
  - 步兵第四十八聯隊（佐賀）
  - 步兵第四十九聯隊（佐賀）
- 騎兵第十五聯隊（久留米）
- 工兵第十五大隊（久留米）
- 野砲兵第十五聯隊（久留米）
- 輜重兵第十五大隊（久留米）
- 重砲兵第五聯隊（久留米）

第十六師團（大阪）

- 步兵第卅一旅團（大阪）
  - 步兵第三十聯隊（大阪）
  - 步兵第三十六聯隊（大阪）
- 步兵第卅二旅團（和歌山）
  - 步兵第八聯隊（和歌山）
  - 步兵第三十八聯隊（和歌山）
- 騎兵第十六聯隊（大阪）
- 工兵第十六大隊（大阪）
- 野砲兵第十六聯隊（大阪）
- 輜重兵第十六大隊（大阪）
- 重砲兵第四聯隊（大阪）

第十七師團（高田）

- 步兵第卅四旅團（高田）
  - 步兵第五十八聯隊（高田）
  - 步兵第六十九聯隊（高田）
- 步兵第卅五旅團（新發田）
  - 步兵第十八聯隊（新發田）
  - 步兵第三十五聯隊（新發田）
- 騎兵第十七聯隊（高田）
- 工兵第十七大隊（高田）
- 野砲兵第十七聯隊（高田）
- 輜重兵第十七大隊（高田）
- 重砲兵第六聯隊（高田）

第十八師團（久留米）

- 步兵第卅五旅團（久留米）
  - 步兵第五十六聯隊（久留米）
  - 步兵第六十三聯隊（久留米）
- 步兵第三十旅團（佐賀）
  - 步兵第四十八聯隊（佐賀）
  - 步兵第四十九聯隊（佐賀）
- 騎兵第十八聯隊（久留米）
- 工兵第十八大隊（久留米）
- 野砲兵第十八聯隊（久留米）
- 輜重兵第十八大隊（久留米）
- 重砲兵第七聯隊（久留米）

第十九師團（會津若松）

- 步兵第卅七旅團（若松）
  - 步兵第六十四聯隊（若松）
  - 步兵第六十五聯隊（若松）
- 步兵第卅八旅團（山形）
  - 步兵第三十二聯隊（山形）
  - 步兵第六十聯隊（山形）
- 騎兵第十九聯隊（若松）
- 工兵第十九大隊（若松）
- 野砲兵第十九聯隊（若松）
- 輜重兵第十九大隊（若松）
- 重砲兵第八聯隊（若松）

第二十師團（金澤）

- 步兵第卅九旅團（金澤）
  - 步兵第七十聯隊（金澤）
  - 步兵第七十一聯隊（金澤）
- 步兵第四十旅團（富山）
  - 步兵第三十五聯隊（富山）
  - 步兵第三十六聯隊（富山）
- 騎兵第二十聯隊（金澤）
- 工兵第二十大隊（金澤）
- 野砲兵第二十聯隊（金澤）
- 輜重兵第二十大隊（金澤）
- 重砲兵第九聯隊（金澤）

第廿一師團（東京）

- 步兵第四十旅團（甲府）
  - 步兵第五十七聯隊（名倉）
  - 步兵第十五聯隊（習志野）
- 騎兵第二十一聯隊（習志野）
- 野砲兵第十五聯隊（國府臺）
- 近衛輜重兵大隊（同）
- 鐵道第一大隊（千葉）
- 鐵道第三大隊（習志野）
- 氣球隊（中野）

第廿二師團（仙臺）

- 步兵第四十一旅團（仙臺）
  - 步兵第二十九聯隊（仙臺）
  - 步兵第六十二聯隊（仙臺）
- 步兵第四十二旅團（福島）
  - 步兵第三十聯隊（福島）
  - 步兵第六十五聯隊（福島）
- 騎兵第二十二聯隊（仙臺）
- 工兵第二十二大隊（仙臺）
- 野砲兵第二十二聯隊（仙臺）
- 輜重兵第二十二大隊（仙臺）
- 重砲兵第十一聯隊（仙臺）

第廿三師團（廣島）

- 步兵第四十三旅團（廣島）
  - 步兵第四十二聯隊（廣島）
  - 步兵第四十四聯隊（廣島）
- 步兵第四十四旅團（廣島）
  - 步兵第四十三聯隊（廣島）
  - 步兵第四十五聯隊（廣島）
- 騎兵第二十三聯隊（廣島）
- 工兵第二十三大隊（廣島）
- 野砲兵第二十三聯隊（廣島）
- 輜重兵第二十三大隊（廣島）
- 重砲兵第十二聯隊（廣島）

第五師團（廣島）

- 歩兵第九旅團（廣島）
  - 歩兵第十一聯隊（廣島）
  - 歩兵第廿一旅團（山口）
    - 歩兵第四十二聯隊（山口）
- 騎兵第五聯隊（廣島）
- 工兵第五大隊（同）
- 重砲兵第四大隊（廣島）

第六師團（熊本）

- 歩兵第十一旅團（熊本）
  - 歩兵第十三聯隊（熊本）
  - 歩兵第廿六旅團（鹿兒島）
    - 歩兵第四十五聯隊（鹿兒島）
- 騎兵第六聯隊（熊本）
- 工兵第六大隊（同）

第七師團（旭川）

- 歩兵第十三旅團（旭川）
  - 歩兵第二十五聯隊（札幌）
  - 歩兵第二十七聯隊（旭川）
- 騎兵第七聯隊（同）
- 工兵第七大隊（同）
- 重砲兵函館大隊（函館）

第八師團（弘前）

- 歩兵第四旅團（弘前）
  - 歩兵第十六聯隊（秋田）
  - 騎兵第三旅團（盛岡）
    - 騎兵第二十三聯隊（盛岡）
- 野砲兵第八聯隊（弘前）
- 輜重兵第八大隊（同）

第九師團（金澤）

- 歩兵第六旅團（金澤）
  - 歩兵第七聯隊（金澤）
  - 歩兵第廿一旅團（富山）
    - 歩兵第三十五聯隊（金澤）
- 騎兵第九聯隊（同）
- 工兵第九大隊（同）

第十師團（姫路）

- 歩兵第八旅團（姫路）
  - 歩兵第十聯隊（姫路）
  - 歩兵第二十旅團（福地山）
    - 歩兵第二十聯隊（福知山）
- 騎兵第十聯隊（姫路）
- 工兵第十大隊（福知山）
- 重砲兵舞鶴大隊（舞鶴）

第十一師團（善通寺）

- 歩兵第十旅團（德島）
  - 歩兵第十二聯隊（丸龜）
  - 歩兵第廿二旅團（善通寺）
    - 歩兵第四十三聯隊（善通寺）
- 騎兵第十一聯隊（同）
- 工兵第十一大隊（同）

第十二師團（小倉）

- 歩兵第十二旅團（小倉）
  - 歩兵第四十七聯隊（小倉）
  - 歩兵第廿五旅團（福岡）
    - 歩兵第十四聯隊（福岡）
- 重砲兵第二旅團（下關）
  - 重砲兵第五聯隊（下關）
  - 重砲兵對島大隊（鰐知）
- 歩兵第二十二聯隊（杜山）
- 歩兵第一聯隊（廣島）
- 野砲兵第五聯隊（同）
- 輜重兵第五大隊（同）
- 重砲兵藝豫大隊（忠海）
- 歩兵第二十三聯隊（熊本）
- 歩兵第六十四聯隊（都城）
- 野砲兵第六聯隊（熊本）
- 輜重兵第六大隊（同）
- 歩兵第二十六聯隊（旭川）
- 野砲兵第七聯隊（同）
- 輜重兵第七大隊（同）
- 歩兵第三十一聯隊（弘前）
- 騎兵第二十三聯隊（盛岡）
- 工兵第八大隊（弘前）
- 歩兵第三十六聯隊（靖江）
- 野砲兵第九聯隊（金澤）
- 輜重兵第九大隊（同）
- 歩兵第四十聯隊（鳥取）
- 野砲兵第十聯隊（同）
- 輜重兵第十大隊（同）
- 歩兵第六十二聯隊（德島）
- 野砲兵第十一聯隊（善通寺）
- 輜重兵第十一大隊（同）
- 歩兵第七十二聯隊（大分）
- 歩兵第二十四聯隊（福岡）
- 野砲兵第十二聯隊（小倉）
- 輜兵第十二大隊（同）
- 重砲兵第六聯隊（下關）
- 警備歩兵大隊（磐原）

第二十三師團（高田）	歩兵第十五旅團（新發田）	歩兵第十六聯隊（新發田）歩兵第三十聯隊（村松） 歩兵第五十聯隊（松本）歩兵第五十八聯隊（高田） 騎兵第十七聯隊（高田）野砲兵第十九聯隊（同） 工兵第十三大隊（小千谷）輜重兵第十三大隊（高田）
	歩兵第十六旅團（高田）	歩兵第二聯隊（水戸）歩兵第五十九聯隊（宇都宮） 歩兵第十五聯隊（高崎）歩兵第六十六聯隊（同） 騎兵第十八聯隊（宇都宮）野砲兵第二十聯隊（同） 工兵第十四大隊（水戸）輜重兵第十四大隊（同）
第二十四師團（宇都宮）	歩兵第廿七旅團（水戸）	
	歩兵第廿八旅團（宇都宮）	
第二十五師團（豐橋）	歩兵第十七旅團（豐橋）	歩兵第十八聯隊（豐橋）歩兵第六十聯隊（豐橋） 歩兵第三十四聯隊（靜岡）歩兵第六十七聯隊（濱松） 騎兵第十九聯隊（豐橋）騎兵第二十五聯隊（豐橋） 野砲兵第廿一聯隊（同）工兵第十五大隊（同） 輜重兵第十五大隊（同）
	歩兵第廿九旅團（靜岡）	
	騎兵第四旅團（豐橋）	
第二十六師團（京都）	歩兵第十八旅團（敦賀）	歩兵第九聯隊（大津）歩兵第十九聯隊（敦賀） 歩兵第三十八聯隊（伏見）歩兵第五十三聯隊（奈良） 騎兵第二十聯隊（京都）野砲兵第廿二聯隊（京都） 工兵第十六大隊（伏見）輜重兵第十六大隊（同）
	歩兵第十九旅團（伏見）	

第二十七師團（岡山）	歩兵第廿三旅團（岡山）	歩兵第四十一聯隊（福山）歩兵第五十四聯隊（岡山） 歩兵第二十一聯隊（濱田）歩兵第六十三聯隊（松江） 騎兵第二十一聯隊（岡山）野砲兵第廿三聯隊（岡山） 山砲兵第二大隊（同）工兵第十七大隊（同） 輜重兵第十七大隊（同）
	歩兵第廿四旅團（松江）	
第十八師團（久留米）	歩兵第廿三旅團（大村）	歩兵第四十六聯隊（大村）歩兵第五十五聯隊（佐賀） 歩兵第四十八聯隊（久留米）歩兵第五十六聯隊（久留米） 騎兵第二十二聯隊（同）野砲兵第廿四聯隊（同） 山砲兵第三大隊（同）工兵第十八大隊（同） 輜重兵第十八大隊（同）重砲兵第長崎大隊（長崎） 重砲兵佐世保大隊（佐世保）
	歩兵第廿四旅團（久留米）	

備考　臺灣、樺太、韓國、滿洲ニ在ル常備團隊ハ本表以外トス

◎日本帝國軍艦一覽

艦名	艦種	進水年月	排水量	艦名	艦種	進水年月	排水量
河內	△戰艦	明治年月 四四、一〇	英噸 一四、六〇〇	鞍馬	一等巡洋艦	明治年月 四〇、一〇	英噸 一四、六〇〇
攝津	△戰艦	四四、三	一四、六〇〇	伊吹	△	四〇、一二	一四、六〇〇
安藝	△	四〇、四	一三、七五〇	筑波	△	三八、一二	一三、七五〇
薩摩	△	三九、一二	一三、七五〇	生駒	△	三五、四	一三、七五〇
鹿島	△	三八、三	九、八八〇	淺間	△	三一、三	九、八八〇
香取	△	三八、七	九、八八〇	常磐	△	三一、七	九、八八〇
三笠	△	三三、一	九、八二〇	出雲	△	三一、九	九、八二〇
朝日	△	三二、一二	九、八二〇	磐手	△	三二、七	九、八二〇
敷島	△	三二、一二	九、七三〇	八雲	△	三二、七	九、七三〇
嚴島	△	三二、一二	九、四二〇	吾妻	△	三二、六	九、四二〇
石見	△	三五、	七、八〇〇	阿蘇	△	三二、〇	七、七〇〇
肥前	△	三三、	七、七〇〇	春日	△	三五、一三	七、七〇〇
相摸	△	三三、	七、七〇〇	日進	△	三五、二	七、七〇〇
防	△	三三、	七、七〇〇	津輕	△二等巡洋艦	三二、	六、六三〇
富士	△	二九、三	一四、六〇〇	宗谷	△	三二、	六、五〇〇
丹後	△	二七、三	一四、六〇〇				

艦名	艦種	進水年月	排水量	艦名	艦種	進水年月	排水量
笠置	二等巡洋艦	三二、一	四、五〇三	葛城	三等海防艦	一八、三	一、五〇三
鷹	△			大和	△	一八、五	一、五〇三
筑	△			武藏	△	一九、三	一、五〇三
戶	△			烏羽	二等砲艦	二六、三	一、六二〇
平	△			宇治	△	二六、三	一、六二〇
千歲	△	三一、一	四、五〇三	伏見	△	二九、八	一、八〇〇
嚴島	△	三三、七	四、五〇三	隅田	△	三六、三	一、二六〇
橋立	△	二四、三	四、五〇三	最上	通報艦	三四、	三、九一八
利根	△	四〇、一〇	四、五〇三	湖洲	○△	三三、	三、〇〇〇
高千穗	△	一八、五	四、五〇三	鈴谷	○△	三三、五	一、二六三
新高	三等巡洋艦	三五、一一	四、五〇三	千早	△	四〇、一二	一、二四〇
對島	△	三五、一二	四、五〇三	淀	△	三三、	一、二四〇
秋津洲	△	三五、七	四、五〇三	龍田	△	三七、四	一、八六四
音羽	△	三六、一二	四、五〇三	韓崎	○水雷母艦	二九、	一〇、五〇〇
明石	△	三〇、一二	四、五〇三	豐橋	△	三一、一二	四、一二〇
須磨	△	二八、三	四、五〇三				
千代田	△一等海防艦	三三、六	二、五五〇				
壹岐	△二等海防艦	三一、	二、五五〇				
見島	△	二七、	二、五五〇				
沖島	△	三五、	二、五五〇				
松江	△三等海防艦	三一、	二、五五〇				

表中△印ヲ附シタルハ日露戰役ニ於ケル戰利艦ニシテ○印ヲ附シタルハ同捕獲ニ係ルモノナリ次ノ驅逐艦モ亦同シ

◉驅逐艦

艦名	進水年月	艦名	進水年月	艦名	進水年月	艦名	進水年月
春雲	明治年月	子日	明治年月 三八、八	夕風	明治年月 三九、八	薄雲	明治年月 三三、一
磯波		如月	三八、九	卯月	三九、九	山彦	
綾波		朝風	三八、一〇	水無月	三九、一一	敷波	
海風		夕暮	三八、一一	長月	三九、一二	皐月	
山風		若葉	三八、一二	松風	三九、一三	文月	
櫻		春風	三八、一一	菊月	四〇、四	眞鶴	
橘		追風	三九、一	浦波	四〇、一二	千鳥	
隼		白露	三九、二	白雲	三四、一〇	雁	
白鷹		初雪	三九、三	朝潮	三五、一	蒼鷹	
鵲		時雨	三九、三	霞	三五、一	鴿	
村雨	三五、一一	夕立	三九、三	雷	三一、一	燕	
朝霧	三六、四	響	三九、三	曙	三二、四	雲雀	
有明	三七、一三	朝露	三九、四	漣	三二、七	雉	
吹雪	三八、一	白雪	三九、五	朧	三二、一〇	鷺	
霰	三八、四	初春	三九、五	叢雲	三一、一二	鵜	
初霜	三八、五	疾風	三九、五	東雲	三一、一	鴻	
潮	三八、六	三日月	三九、五	夕霧	三二、一	鷗	
神風	三八、七	野分	三九、七	不知火	三二、三		
彌生	三八、八	白砂	三九、一二	陽炎	三二、八		

本表ハ調査ヲ取急ギタル爲不明ノ廉アルモ進水年月等ハ更ニ調査ノ上再版ノ際記入ス乞フ之レヲ諒セヨ

◎各國軍事費調

		軍事費支出年額	國民一人ノ支出額
米	國	五億九千五百萬圓	七圓七十錢
獨	國	五億八千六百萬圓	九圓六十錢
露	國	五億八千萬圓	四圓三十錢
英	國	五億七千六百萬圓	十四圓〇
佛	國	四億三千二百萬圓	十一圓
墺	國	二億五千六百萬圓	四圓六十錢
日	本	二億二千二百萬圓	四圓二十錢
伊	國	一億七千三百萬圓	五圓三十錢

◎各國面積、人口、歲出及國債調

	領土面積（平方里）	人口	歲出額（萬圓）	國債額 金額（萬圓）	國債額 一人負擔（圓）
露	一、八五六、〇四四	四〇〇、一五一、〇〇〇	一一〇、一一一〇	七二、九一〇〇	一七
英	一、四一六、八四九	一三六、三〇〇、〇〇〇	一六、〇〇四〇	九二、一六〇〇	六七
佛	一一〇、〇七七	三八、四一三、〇〇〇	一五、五一〇	一一八、一七〇〇	三〇一
獨	六九、一八〇	五七、〇〇〇、〇〇〇	一、六三〇	一一、七一〇〇	
墺	六〇、七九四〇	一〇一、一一〇、〇〇〇	一七、一五〇	五二、九〇〇	六九
伊	一九八、六三三	二九、五一七、〇〇〇	四〇、四一六〇	九〇、八六〇〇	一五〇
西	一九五、九五五	一八、一一一、〇〇〇	八、八九〇	五〇、八八〇〇	一六七
日	一四、四三三	四、五一一、〇〇〇	五、一七〇	一三、〇〇〇	四
米	一、〇六、〇三一	一四、一三一、〇〇〇	一六、四四〇	一三、七〇〇	一五

◎各國陸海軍一覽（上海軍ハ裝甲巡洋艦ヲ以テ示ス）

	陸軍 總兵力	陸軍 步兵	陸軍 騎兵	陸軍 砲兵	想戰時兵力豫	海軍（噸）
露	一、三〇〇、〇〇〇	七三八、〇〇〇	一三一、〇〇〇	一一六、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	一九、〇〇〇
英	六三四、三一〇	四〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	七〇、〇〇〇	四、六一〇、〇〇〇	五一五、〇〇〇
佛	六三四、六六	三六七、〇〇〇	七五、〇〇〇	六七、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇
獨	三三七、五六〇	二五一、〇〇〇	五六、〇〇〇	三五、〇〇〇	一一、〇〇〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇
墺	二九三、九二	一六三、〇〇〇	一七、〇〇〇	三一、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	
伊	二六八、四九	一五八、〇〇〇	一五、〇〇〇	三六、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一六三、〇〇〇
西	二五五、四六	一五一、〇〇〇	一一、〇〇〇	二九、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、一九三、〇〇〇
日	一三〇、〇〇〇	一四九、〇〇〇	一三、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三一六、〇〇〇
米	一〇六、〇三一	一一五、〇〇〇	九、〇〇〇	一一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	二六五、〇〇〇

◎各國貯金調

	人口ニ對スル貯金者千分比	貯金者一人平均額
日本	一人	一四円六一五
英國	二〇	一三九、〇〇〇
露國	二六 二人	一九三、〇〇〇
白耳義	三七 二人	二〇七、〇〇〇
和蘭	二五 三人	五八〇、〇〇〇
加奈太		

◎度量衡

度	毛	尺ノ一萬分ノ一	
	厘	尺ノ千分ノ一	
	分	尺ノ百分ノ一	
	寸	尺ノ十分ノ一	
	丈	十尺	
地積	夕	歩ノ百分ノ一	
	合	歩ノ十分ノ一	
	歩又ハ坪	三十六平方尺	
	畝	三十歩	
	段	三百歩	
度	間	六尺	
	町	三百六十尺	
	里	一萬二千九百六十尺	
地積	町	三千歩	

◎日用心得草

（諸子ハ新聞雜誌上ニテ見聞シタル左ノ如キ心得ヲ覺エ置クヲ可トス）

一、疊ニ墨ノツキタルヲ落ス法

コレハ少シナラハ直ニ拭ヒ取リテヨシ多クツキタナラハ柔ナル紙カ布ニテ靜カニ吸ヒトラセアトハ其ママニナシ置キ乾キタル上新ラシキ綿ニテ擦ルナリ

一、室内ノ煤ヲ洗フ法

煤掃ノ時柱又ハ天井ノ煤ヲ洗フニハ灰汁ニ限ルヘシ

一、額灑ノ拭ヒ方

額又ハ鏡ナト金緣ノ光澤ヲ出シ又ハ蚊蠅ナトノ糞ヲ落スニハ玉葱ヲ二ツニ切リテ其切リ口ニテ靜カニ擦テタル後「ネル」ニ水ヲ含マセテ拭フヘシ

一、鼠ノ驅除法

壁又ハ羽目板ナト常ニ鼠ノ出入スル穴ヲ見ツケ其周圍ニ「コールタール」ヲ塗リ置クヘシ其臭氣アル間ハ鼠ノ來ルコトナシ

一、蟻ヲ防ク法

座敷ヘ蟻ノ這ヒ上リタル時ハアラメテ煮タル汁ヲ椽ノ下ニ撒キテヨシ又果實ナソニハ其樹ノ下ニマクヘシ

一、衣類ニ油ノ附キタルヲ落ス法

之ハ大根ヲヲロシニカケテ之ヲ油ツキタル所ニ採ミツケ置キ熱湯ニテ洗ヒ落スヘシ

一、衣類ニ逢ノツキタルヲ落ス法
白砂糖ヲモミツケテ洗ヘハ跡ナク落ツルモノナリ

一、衣類ニ鳥糞ノツキタルヲ落ス法
コレト醬ノヌメリニテ洗ヘハ直タチニ落ツルモノナリ

一、衣類ニ疵點ノツキタルヲ落ス法
衣類ニ種々ノ汚點アルヲ洗ハスシテ色合ヲ害ハス直サンニハ大根ノ絞リ汁ヲ刷毛ニテ刷キ消スヘシ

一、毛織物ノ保存法
フランネル羅紗等ノ織物ハ収メ置ク時其間ヘ樟腦ヲハサミ置クヘシ又蕈筒長持ツヽラナト防虫劑トシテ少量ノ樟腦水ヲ刷毛ニテムラナク塗リ置クヘシ半年位ハ保ツ者ナリ

一、衣類ニ石油ノカヽリタルヲ落ス法
遠火ニテソツト炙シ漸々油氣ヲ蒸發セシムヘシ若シ毛織物ナル時ハ熱灰ヲ布片ニツヽミテ汚點ノ上ヲ輕ク押スヘシ尤モ熱灰ハ幾度モ取リカユヘシ

衣類ニ汚物ノ附着シタルトキハ成ク可ク迅速ニ除去ノ方法ヲ講スヘシ然ラサレハ深ク纖維ヲ浸染シテ容易ニ其ノ目的ヲ達シ能ハサルニ至ルヘシ

一、汗　水ニ少量ノ「アンモニア」(僅ニ臭フ程度)ヲ入レタル液ヲ汚點ノ部ニ塗布シ水洗ヲ

行ヘシ

一、黴ハ先ツ日光ニ晒シ刷毛類ニテ除去シ

一、襟垢ハ揮發油ヲ布片ニ浸シテ摩拭スヘシ

一、「コールタ」ハ揮發油又ハ石油ニテ洗フヘシ

一、靴墨ハ石鹸水ニテ洗フヘシ

一、「インキ」墨類ハ水一合醋酸二三滴ヲ加ヘア洗除スヘシ

一、砂糖醬油類ハ速ニ水洗スヘシ

一、醬油ノ汚點ヌキ法
衣類ニ醬油ノカヽリタル時ハ其所ヲ兩方ヨリ引張リテ上ヨリ湯ヲソヽキカクヘシ但シ少シハカリノ時ロニ含ミ吸ヒトルヘシ

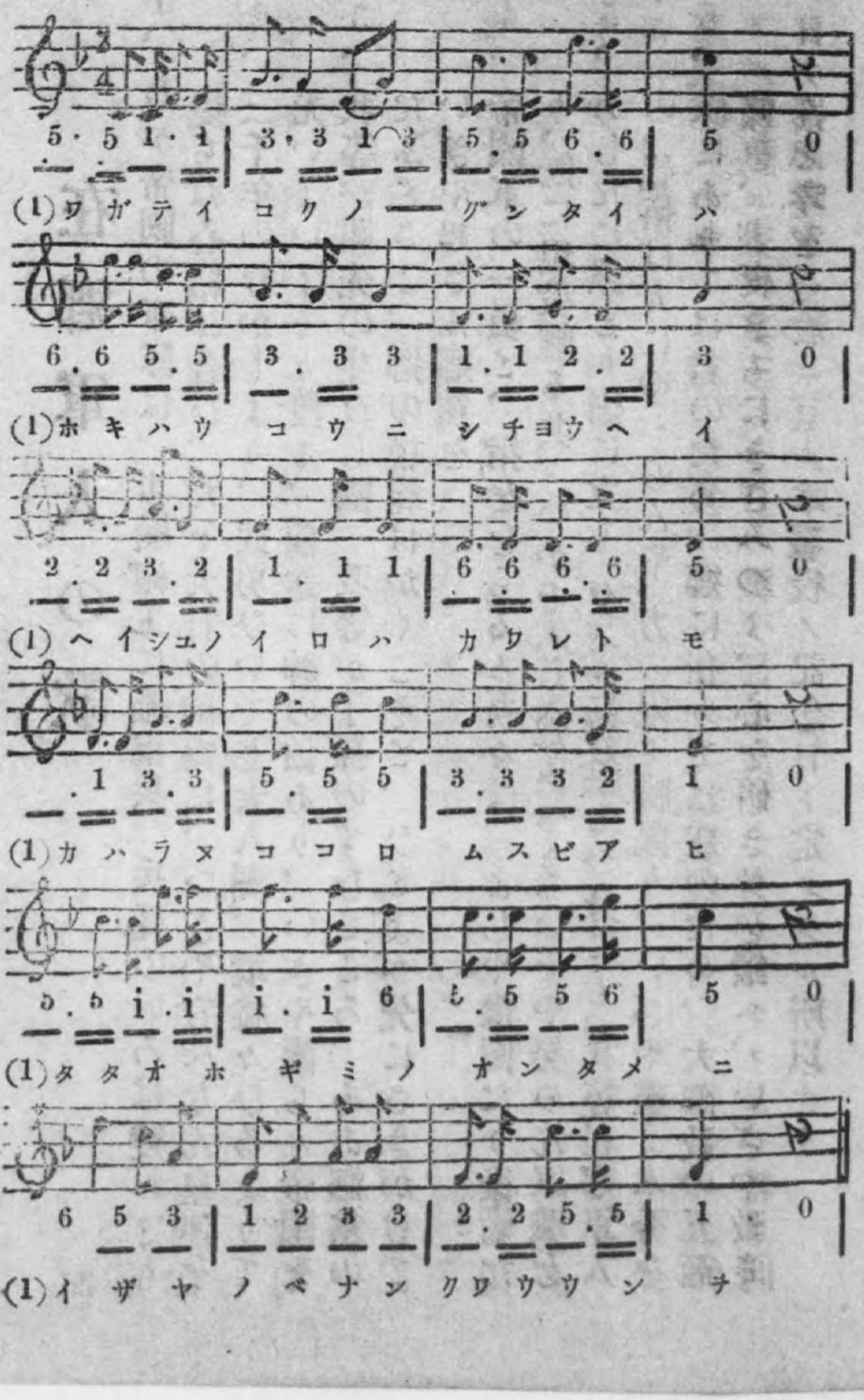
明治三十七八年戰役記念日設定趣意書

今回ノ戰役ハ我國曩古ノ大業無前ノ壯圖ニシテ皇威ヲ宣揚シ國權ヲ伸張シ我武維レ揚レリ是レ我國史上ニ一大光彩ヲ加ヘタルモノニシテ此偉績ハ軍隊ノ永ク後來ニ忘ル可ラサル所ナリ是ニ於テカ年年一定ノ日ヲ期シ其洪勳ニ對シ祝意ヲ表スルタメ適當ノ式典ヲ行ヒ或ハ相會シテ往ヲ談シ來ルヲ語ルト共ニ戰沒者ノ英靈ヲ慰メ以テ後進者

ヲ砥勵薫陶シ益々陸軍ノ進歩ヲ圖ルコト頗ル有効ノコトナリトス而シテ從來ノ戰役ニ徴スルニ各部隊又ハ關係者ニ於テ隨意記念日ヲ定メ一部若クハ一戰闘ノ記念會等ヲ行フモノナキニアラスト雖是等記念會等ハ其範圍狹少ナルカタメ年所ヲ經ルニ隨ヒ關係者ノ減少若ハ部隊長ノ更迭等ニ依リ自然永續セサルノ傾向アリテ永遠ニ之カ目的ヲ達スルコト能ハス加之是等記念日ハ其數多キニ從ヒ益々其價値ヲ減スルニ至ルカ故ニ今回ノ大戰役ノ爲メニハ特ニ陸軍全般ニ亘ル記念日ヲ定メ本戰役ニ干與セル者ハ勿論後來陸軍ニ從事スル者ヲシテ本戰役ノ偉績ヲ懷想シ祝意ヲ表セシムルヲ最良ノ手段ト認ム是レ獨リ戰歿者ノ英靈ヲ慰藉スルノミナラス軍隊ノ士氣ヲ振起シ精神上多大ノ稗益ヲ收得シ猶後世ニ至ルマテ能ク本戰役ノ洪勳ヲ欽仰セシムルコトヲ得ヘシ

奉天ノ大會戰ハ今回ノ戰役中我軍隊ノ大部分之ニ參與シ各軍ニ關係アル戰闘ニシテ其三月十日ハ戰況最モ良好ナリシ日トス是レ特ニ同日ヲ撰ヒ陸軍全般ニ亘ル本戰役ノ記念日ト定メタル所以ナリ

在鄕軍人歌譜



在鄉軍人の歌

1、わが帝國の軍隊は、歩騎砲工に輜重兵、兵種のいろは變れども
　變らぬ心結び合ひ、たゞ大君の御爲に、いざや宣べなん皇運を
2、三千年のむかしより、武勇ひいでし大八洲、境益々ひろまりて
　光いよいよてり渡る、前途に神の佑あり、いざや護らん帝國を
3、我等が祖先の生ひし國、我等が子孫のすむところ、ああ鄉黨の
　たふとさよ、鄉の模範はかくこそと、ひとより先にさきがけて
　いざや起さん鄉黨を
4、帝國軍の一員と、指ををらるる吾々は、よしや豫備たり後備た
　り、既に現役離る共、いかで心を弛ふべき、いでや努めん軍職を
5、あしたに鍬とり畑に立ち、夕べに算盤もつ身にも、我等在鄉軍人
　の、覺悟は人にゆづらんや、力の限り腕限り、いざや盡さん本分を
6、隊にありては君のため、鄉にありては親のため、大御敎の五箇
　條を、晝夜きもにぎざみつゝ、心を研き身を鍛へ、いざや致さ
　ん忠孝を

大正元年十一月廿二日印刷
大正元年十一月廿五日發行

270
552

不許複製

發行所　帝國在鄉軍人會豐橋支部

印刷所　豐橋市西八町百十八番戸　藤田印刷所

發行兼印刷人　豐橋市西八町百十八番戸　藤田庄太郎

著作　帝國在鄉軍人會豐橋支部

[redacted]